第１章 人口と世帯

本章では神奈川県の少子高齢化の状況や基礎知識として男女の人口、世帯数などについてみます。

本県の少子高齢化が進んでいます。

1965年以降の状況をみると14歳以下の年少人口割合は低下し、老年人口割合は高くなっています。本県の人口ピラミッドは、いわゆる第１次ベビーブーム世代（1947年から1949年出生）と第２次ベビーブーム世代（1971年から1974年出生）の二つのふくらみがある「ひょうたん型」をしています。第１次ベビーブーム世代がすべて65歳以上となる2014年末には、老齢年齢割合が一層高くなることが見込まれます。

総人口は2012年１月１日現在906万257人（男性454万2247人、女性451万8010人）で全国第２位です。2010年10月との比較では女性は14,224人増加しているものの男性は2,298人減少しました。男女比を示す人口性比は100.5となり本県においても近い将来女性が男性を上回る可能性が高いと考えられます。

世帯の状況は、単身世帯や夫婦のみの世帯の割合が高くなる一方で夫婦と子どもからなる世帯の割合は低下しています。また、１世帯当たり人員は減少傾向にあり、高齢者を含め一人暮らしが増えています。

【少子高齢化】

神奈川県の少子高齢化が進んでいます。14歳以下の年少人口割合は、1970年10月に23.8％であったが2012年１月には13.1％と10ポイント以上低下しました。その一方で、65歳以上の老年人口割合は1970年の4.7％から2012年20.7％と16ポイント高くなっています（生産年齢人口割合は、1970年71.5％、2012年66.1％）。

少子化の直接、間接の要因としては、合計特殊出生率の低下、平均初婚年齢が男女ともに高くなっていること、第１子出生時の母の年齢が高くなっていること、婚姻率が低下し、離婚率が高くなっていることなどが考えらます。

高齢化の要因としては、高度成長期に県内に転居された方々が老年人口に達したこと、平均寿命が伸びていることなどが考えられます。

【総人口】

神奈川県の総人口は戦後の高度成長期による労働者の転入等により1956年300万人、1963年400万人、1968年500万人、1973年600万人と急増しました。その後、人口増加は緩やかとなり1981年700万人、1991年800万人、2009年７月に900万人を超え、2012年１月１日現在において906万257人となっています。2010年10月から11,926人増加したものの男性は2,298人減少しました（女性は14,224人増加）。

本県は男性の人口（454万2247人）が女性の人口（451万8010人）を上回り、2012年１月１日現在の人口性比は100.5です。1970年10月106.5、2000年10月103.1から大幅に低下しており、近い将来女性の人口が男性を上回るものと考えらます。

なお、全国の人口性比は国勢調査によると1940年を最後に100を下回り、2010年は94.8です。

【世帯】

神奈川県の世帯数は増加しており、2012年１月387万6258世帯と1970年10月146万9259世帯の2.6倍になっています。

１世帯当たり人員は2012年2.34人で、1970年3.60人より1.26人減っています。

2010年10月一般世帯では、単身世帯が最も多くその割合は33.8％であり、1970年10月の12.2％より21.6ポイント高くなっています。

次いで夫婦と子どもからなる世帯が多く31.1％ですが、1970年の53.4％より22.3ポイント低下しています。夫婦のみの世帯は20.0％で1970年の11.8％より8.2ポイント高くなっています。また、女親と子どもからなる世帯は6.8％で1970年の4.9％より1.9ポイント高くなっています。

1-1　年少人口（14歳以下）割合

神奈川県の年少人口割合が低下しています。

1965年10月以降５年ごとの状況をみると、本県の年少人口割合（14歳以下の人口割合）は1965年から75年までは高くなりましたが、75年の25.5％を最高に低下しました。90年には17.2％と10％台となり、2012年１月１日現在は13.1％となっています。

出典　［神奈川県年齢別人口統計調査結果］
［国勢調査］
このページすべて同じ　☆

1-2　生産年齢人口（15歳～64歳）割合

神奈川県では少子高齢化の進展に伴い、生産年齢人口割合（15歳～64歳）は低下しています。

1965年10月以降５年ごとの状況をみると、本県の生産年齢は65年から80年まで低下し、その後95年まで高くなり74.0％となりました。しかし、その後は再度低下し、2012年１月１日現在では66.1％となっています。

☆

1-3　老年人口（65歳以上）割合

神奈川県の老年人口割合が高くなっています。

1965年10月以降５年ごとの状況をみると、本県の老年人口割合（65歳以上の人口割合）は65年の4.4％から95年には10％台と上昇し、2012年１月１日現在では20.7％となっています。

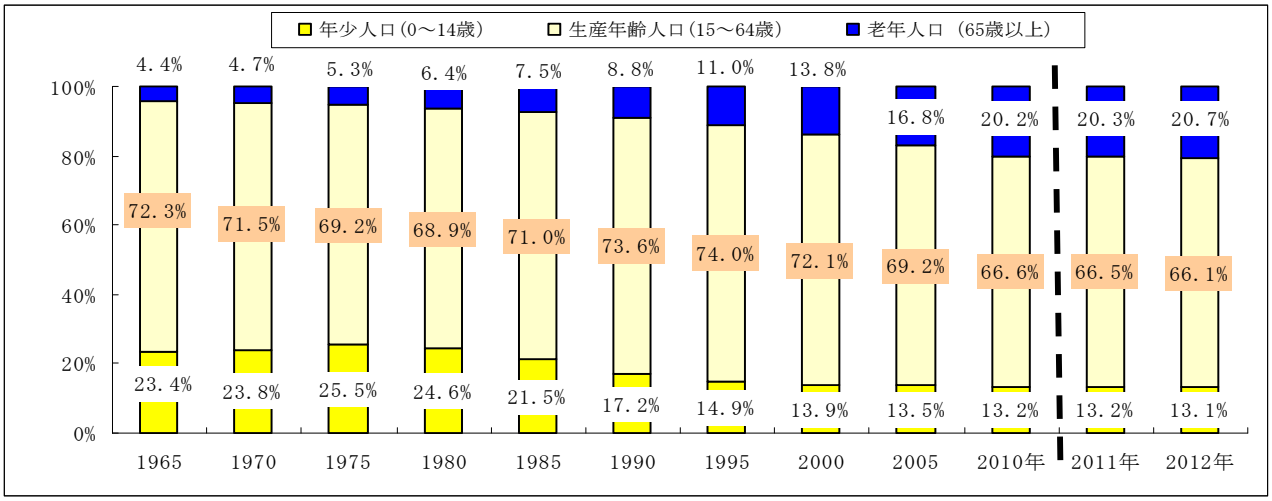
人口ピラミッドをみると第１次ベビーブーム世代がすべて65歳以上となる2014年末には、より一層老年人口割合が高くなることが想定されます。

☆

注

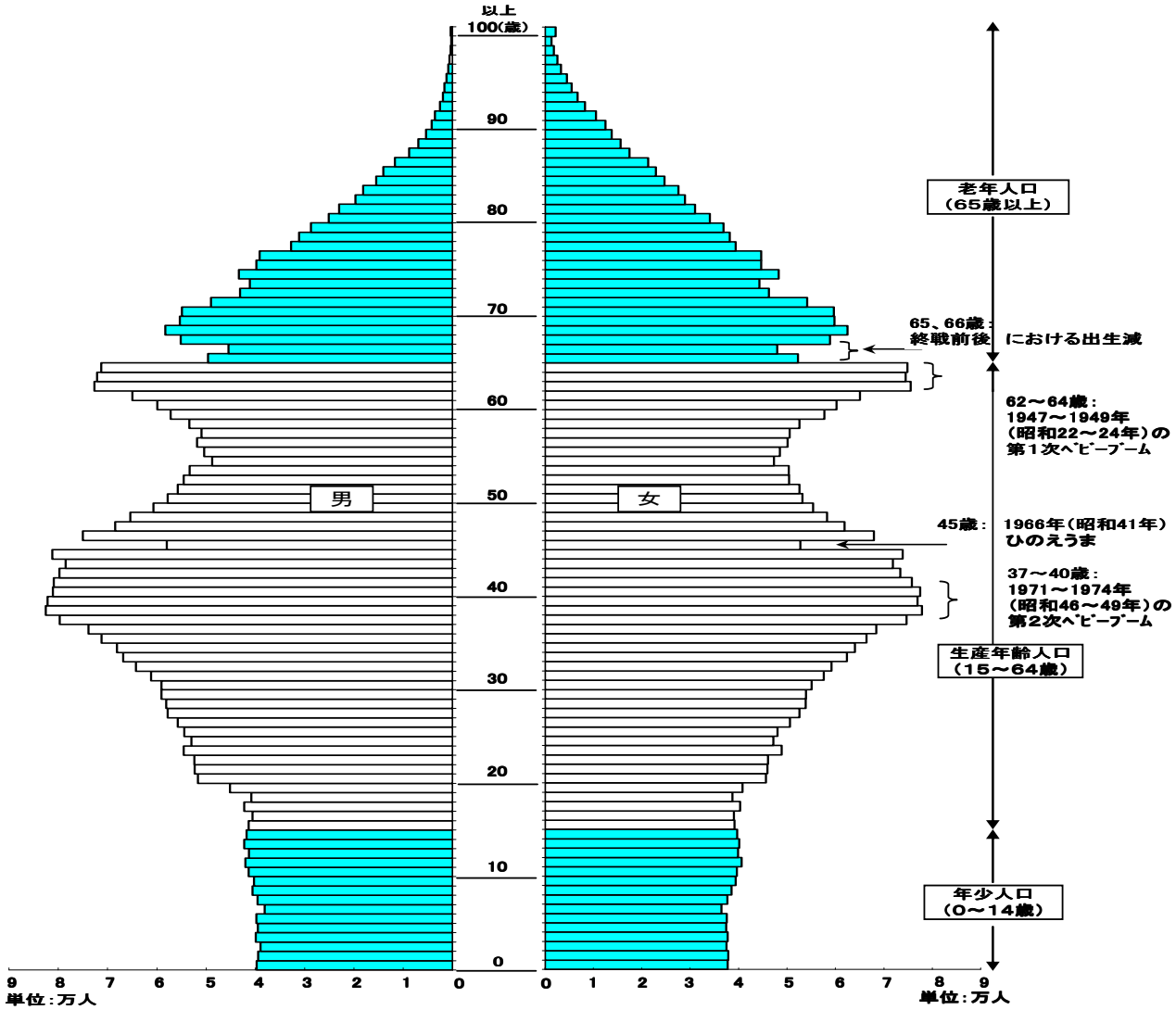
年少人口割合：年少人口割合＝14歳以下の人口／総人口×100
生産年齢人口割合：生産年齢人口割合＝15歳～64歳の人口／総人口×100
老年人口割合：老年人口割合＝65歳以上の人口／総人口×100

（1-1～1-3　年少人口（14歳以下）割合、 生産年齢人口（15歳～64歳）割合、 老年人口（65歳以上）割合）



［神奈川県年齢別人口統計調査結果］　［国勢調査］

◆　人口ピラミッド（2012年１月１日現在）



〔神奈川県年齢別人口統計調査結果〕

☆

注

2011年・2012年は１月１日現在、他年は10月１日現在の数値。

1-4　平均余命（０歳時）

神奈川県民の平均余命は男女共に伸びています。

０歳時における男性の平均余命は1965年の69.05歳から2010年80.33歳と、45年で11.28歳平均余命が伸びました。

０歳時における女性の平均余命は1965年の74.08歳から2010年86.80歳と、45年で12.72歳平均余命が伸びました。

なお、男女の０歳時における平均余命は一貫して女性が男性より長くなっています。1965年時での男女差は5.03歳でしたが2010年時では6.47歳とその差は広がっています。

出典　［神奈川県衛生統計年報］　☆

1-5　婚姻率（人口千人対）
1-6　離婚率（人口千人対）

神奈川県の婚姻率が低下し、離婚率が上昇しています。

本県の人口千人当たりの婚姻率は、1965年の12.6‰から2010年10月１日現在6.1‰となり、45年前より6.5ポイント低下しています。

一方人口千人当たりの離婚率は、1965年の0.9‰から2010年10月１日現在2.0‰となり、45年間で1.1ポイント上昇しています。

なお、婚姻率と離婚率の差は、1965年には11.7ポイントの開きがありましたが、2010年は4.1ポイントとなりその差は縮まっています。

出典　［神奈川県衛生統計年報］　☆

1-7　合計特殊出生率

神奈川県の合計特殊出生率は低下傾向でしたが、2010年は５年前より上昇しました。

女性が一生で産む子どもの数とされる合計特殊出生率は1965年の2.22から2010年10月１日現在1.31と45年で0.91ポイント低下しています。しかし、５年前の2005年よりは、0.12ポイント上がっています。

なお、2010年全国の合計特殊出生率は1.39で本県は0.08低くなっています。

出典　［神奈川県衛生統計年報］　☆

1-8　人口性比

神奈川県の人口性比は低下傾向にあり、男女同数の100に近づいています。

本県の人口性比は1965年10月106.1から2012年１月１日現在100.5となり、この間に5.6ポイント低下しました。

また、国勢調査では2010年10月１日現在本県の人口性比は100.9で全国第１位、他都道府県では埼玉県のみが女性より男性が多く100を上回っています。

なお、全国の人口性比は、1940年の100.048を最後に100を下回り、2010年は94.8となっています。

出典　［神奈川県人口統計調査結果］
〔国勢調査〕　☆

注

婚姻率：婚姻率＝年間婚姻件数／総人口

離婚率　：離婚率＝年間離婚件数／総人口

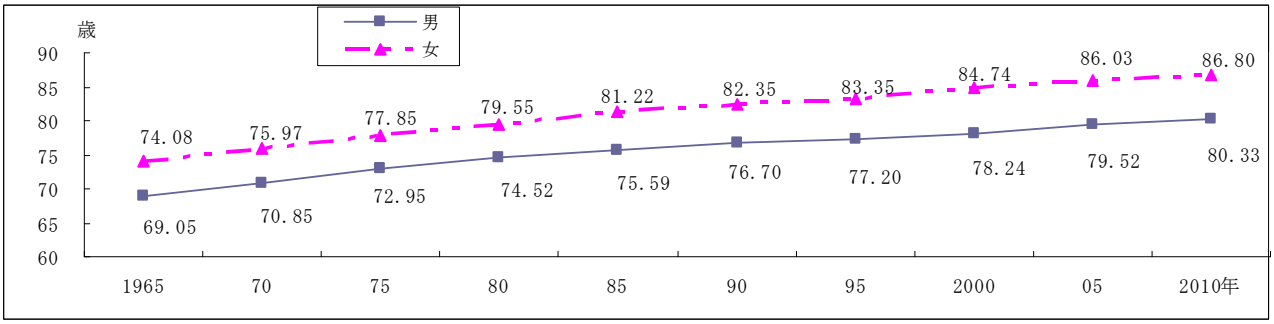
‰（パーミル）　：千分率の記号で、１‰＝0.1％となります。

合計特殊出生率：合計特殊出生率は「15から49歳まで」の女性の年齢別出生率を合計したものです。

人口性比：人口性比は女性100人に対する男性の数です。女性より男性が多いと100を超え、少ないと下回ります。　なお、男性、女性ともに総人口で比較しています。

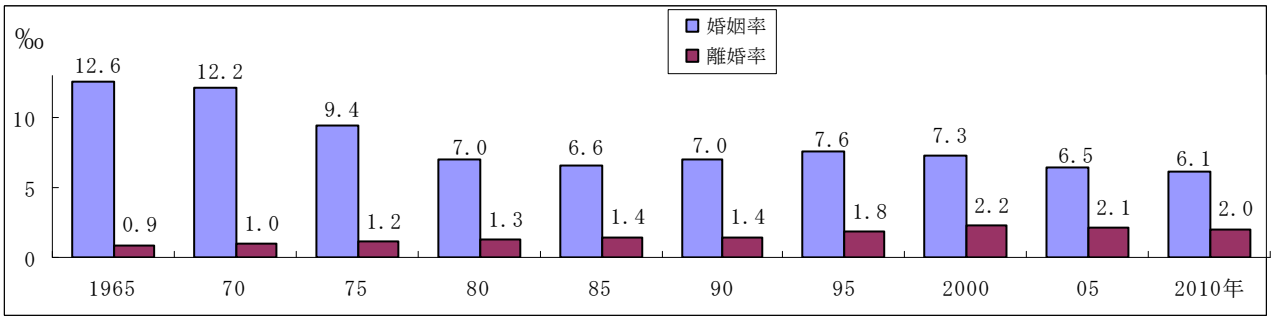
$$人口性比=\frac{男性人口}{女性人口}\times 100$$

（1-4　男性平均余命（０歳時）、 女性平均余命（０歳時））



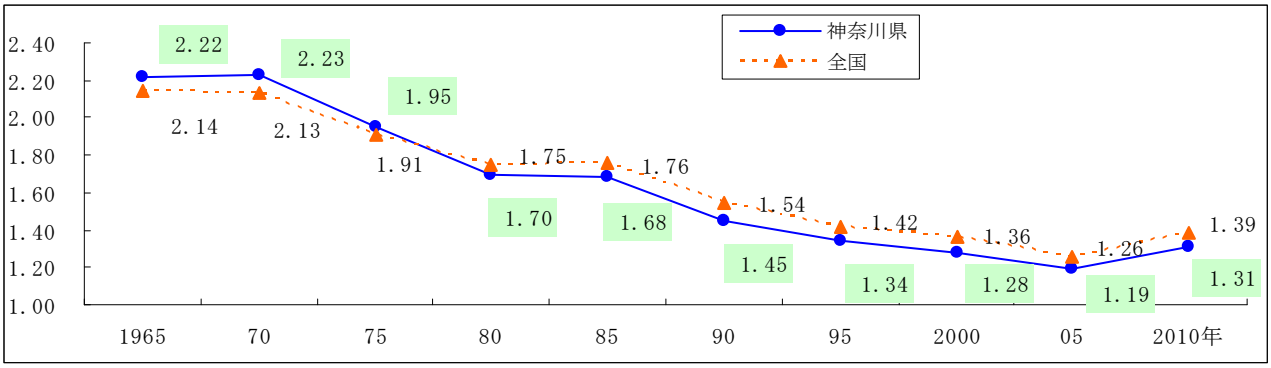
［神奈川県衛生統計年報］☆

（1-5　婚姻率(人口千人対)　1-6 離婚率(人口千人対)）



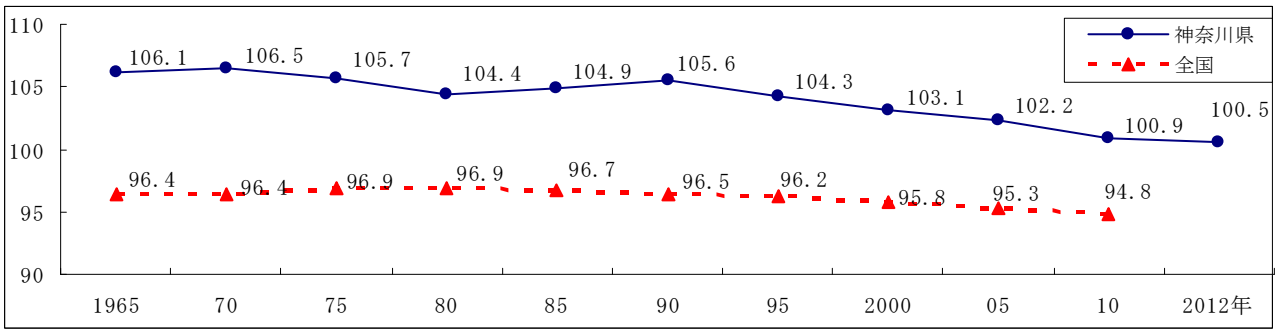
［神奈川県衛生統計年報］☆

（1-7　合計特殊出生率）



［神奈川県衛生統計年報］☆

（1-8　人口性比）



〔神奈川県人口統計調査結果〕
〔国勢調査〕
☆

注

1-4～1-7
各年10月１日現在の数値。

1-8
2012年は１月１日現在、他年10月１日現在の数値。

1-9　平均初婚年齢

2010年に結婚生活に入り届け出たもののうち、神奈川県男性の初婚者の初婚平均年齢は31.3歳です。1985年からの推移をみると、20年前の1990年の28.8歳から2.5歳、10年前の2000年の29.5歳より1.8歳遅くなっており、晩婚化が進んでいることがわかります。

同じく、女性の初婚平均年齢は29.4歳です。1985年からの推移をみると、20年前の1990年の26.2歳から3.2歳、10年前の2000年の27.6歳より1.8歳遅くなっており、女性も晩婚化が進んでいることがわかります。

なお、全国の男性の平均初婚年齢は30.5歳、女性の初婚平均年齢は28.8歳で、男女とも神奈川県民が全国より平均初婚年齢が高くなっています。

出典　［人口動態調査］

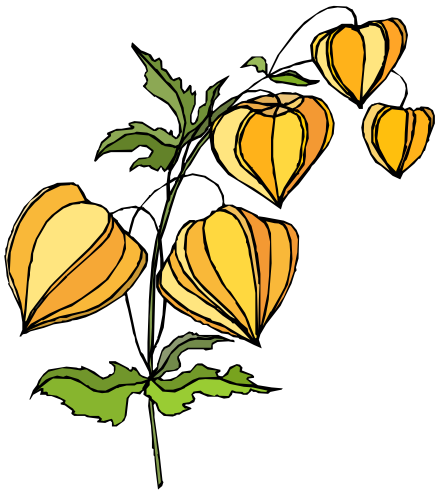
1-10　第１子出生時の母の年齢

2010年の神奈川県における第１子出生時の母の年齢を５歳区分でみると、最も多いのが30歳代前半の14,244人で35.8%、以下20歳代後半の12,364人で31.1%、30歳代後半の7,128人で17.9%の順です。

10年前の2000年の状況は、多い順に20歳代後半19,222人で44.8%、30歳代前半13,040人で30.4%、20歳代前半6,284人で14.6%です。

女性の平均初婚年齢が高くなっていることに伴い、第１子出生時の母の年齢も高くなっています。

出典　［神奈川県衛生統計年報］



1-11　第１子、第２子、第３子以上の出生数と第３子以上の割合

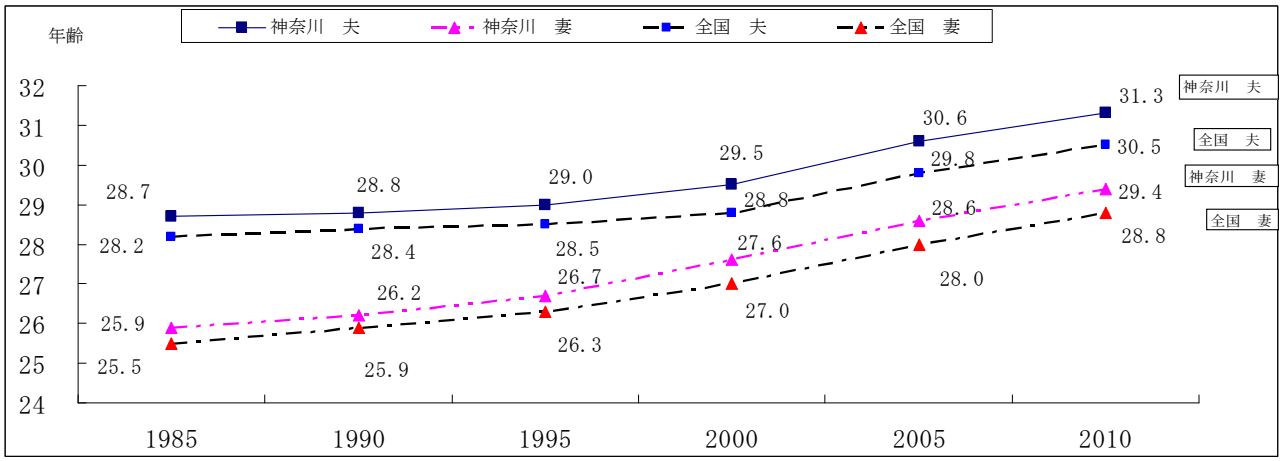
2010年における神奈川県の出生数は78,077人で、10年前より4,829人少なく、５年前より1,881人多くなっています。

第３子以上の出生数についてみると、2010年は10,147人で、10年前の9,718人より429人、５年前の8,947人より1,200人多くなっています。

また、出生数に占める第３子以上の割合は、2010年は13.0%で、10年前の11.7%、５年前の11.7%より1.3ポイント高くなっています。

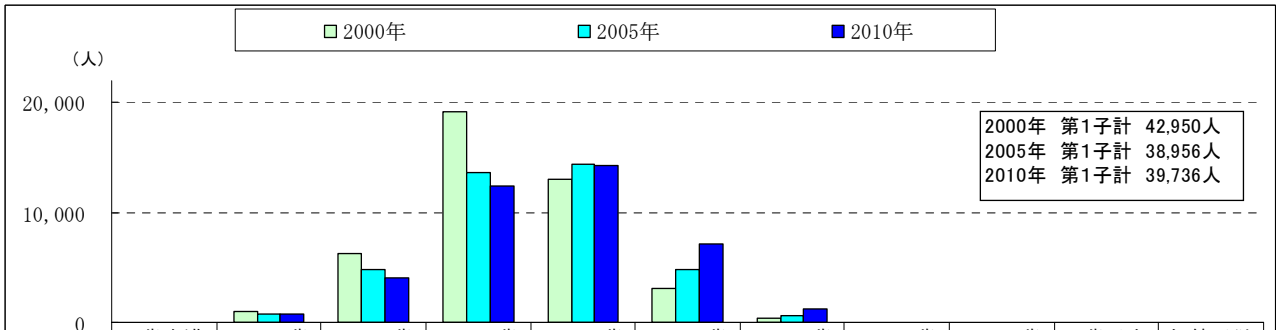
出典　［神奈川県衛生統計年報］より作成

（1-9　平均初婚年齢　神奈川県　全国）



（1-10　第１子出生時の母の年齢の推移 神奈川県）

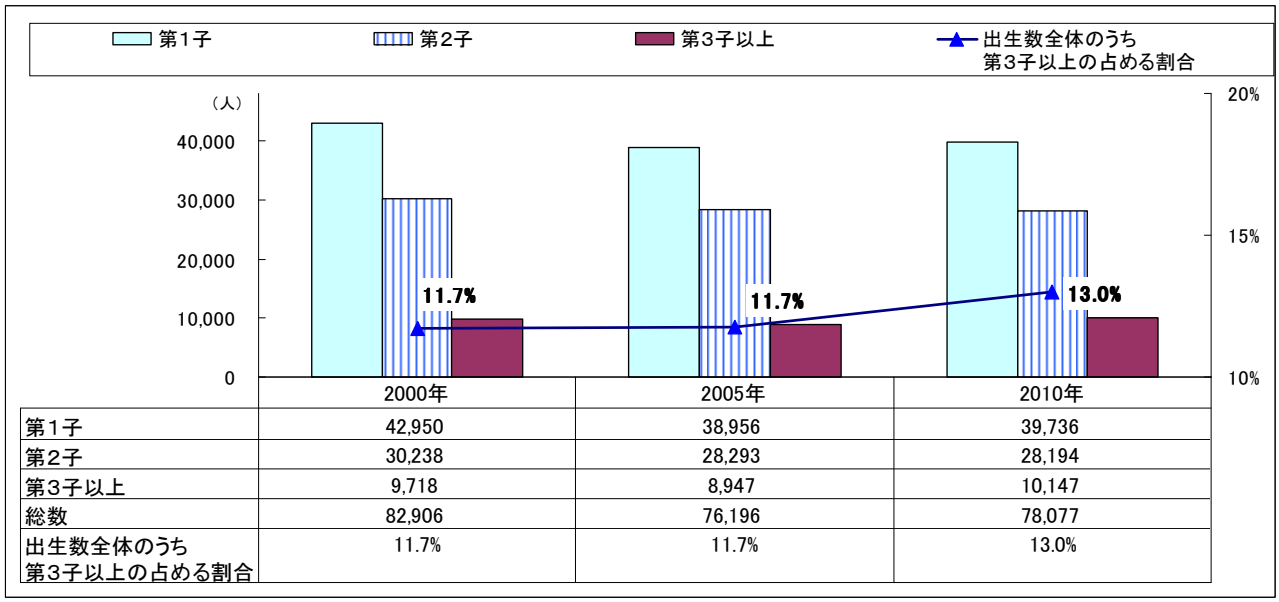
〔人口動態調査〕



	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55歳以上	年齢不詳
2000年	3	964	6,284	19,222	13,040	3,045	378	12	0	0	2
2005年	5	780	4,734	13,635	14,341	4,806	630	24	1	0	0
2010年	1	693	4,075	12,364	14,244	7,128	1,201	29	1	0	0

〔神奈川県衛生統計年報〕

（1-11　出生順位別にみた出生数の年次推移　神奈川県）



	2000年	2005年	2010年
第1子	42,950	38,956	39,736
第2子	30,238	28,293	28,194
第3子以上	9,718	8,947	10,147
総数	82,906	76,196	78,077
出生数全体のうち第3子以上の占める割合	11.7%	11.7%	13.0%

〔神奈川県衛生統計年報〕より作成

注

1-9

各年に結婚生活に入り届け出たもののうち、初婚の人の年齢。

1-12　同年別居離婚
同居をやめたときの夫の年齢

当該年に同居をやめ、かつ離婚の届出のあった（同年別居離婚）件数は、2010年の神奈川県では12,801件で、10年前の2000年より631件減少し、５年前の2005年より449件減少しています。

2010年の同居をやめたときの男性の年齢（５歳ごと）は、30歳代後半が最も多く、次いで30歳代前半、40歳代前半の順です。

2000年からの推移をみると、同居をやめたときの年齢が高齢化していますが、初婚年齢が高齢化していること（項目1-9参照）によるものと考えられます。

なお、同年別居離婚を含む全離婚件数は2010年17,830件です。

出典　［神奈川県衛生統計年報］

1-13　同年別居離婚
同居をやめたときの妻の年齢

当該年に同居をやめ、かつ離婚の届出のあったもののうち、2010年の同居をやめたときの女性の年齢（５歳ごと）は、30歳代前半が最も多く、次いで30歳代後半、20歳代後半の順です。

一方、2000年次では、20歳代後半が最も多く、次いで30歳代前半、30歳代後半の順です。

同居をやめたときの年齢が高齢化していますが、男性と同様、初婚年齢が高齢化していること（項目1-9参照）によるものと考えられます。

出典　［神奈川県衛生統計年報］

1-14　離婚申し立ての動機別件数　（全国）

全国の調停及び審判による離婚について、2011年の離婚申し立ての動機別の状況は、男女ともに「性格が合わない」が最も多くなっています。

男性は次いで「異性関係」「家族親族と折り合いが悪い」「精神的に虐待する」の順（「その他」除く）です。

女性は、２番目以下「暴力をふるう」「生活費を渡さない」「精神的に虐待する」の順で、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス」が原因となっています。

出典　［司法統計年報］

注

同年別居離婚：当該年に同居をやめかつ届出のあったもの

親権を行わなければならない子：20歳未満の未婚の子

1-15　離婚後の親権（全国）

2010年中の離婚について、親権を行わなければならない子をもつ夫婦別にみた離婚後の全児の親権を持つ割合は、女性が83.3%、男性が12.9%、その他が3.7%です。

1960年までは、男性が親権を有する割合が高かったものの、1970年以降は女性が親権を有する割合が高くなっています。

出典　［人口動態調査］

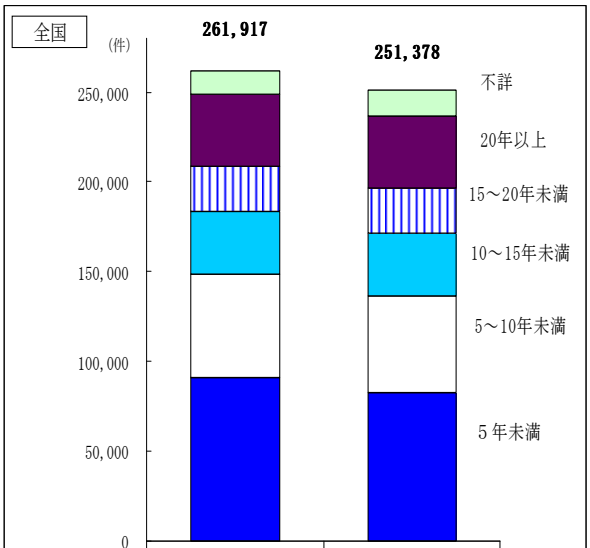
1-16　全婚姻件数中の再婚の割合

2010年における神奈川県の全婚姻件数に占める再婚件数の割合は、男性が16.0%、女性が14.7%です。

５年毎の推移をみると、男女ともに再婚件数の割合は高くなっています。

出典　［神奈川県衛生統計年報］
［人口動態調査］

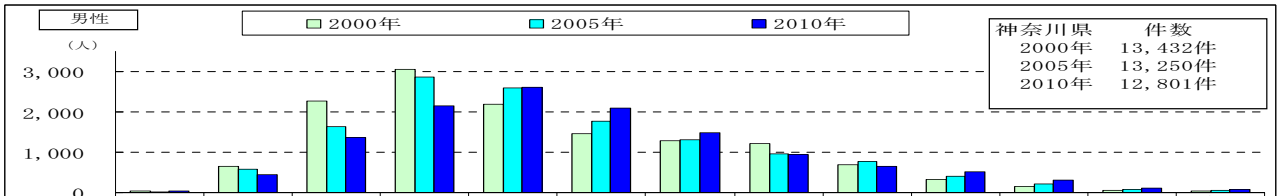
◆　**同居期間別離婚件数の推移　全国**



	平成17年	平成22年
不詳	13,097	14,474
20年以上	40,395	40,084
15～20年未満	24,885	25,618
10～15年未満	35,093	34,862
５～10年未満	57,562	53,449
５年未満	90,885	82,891

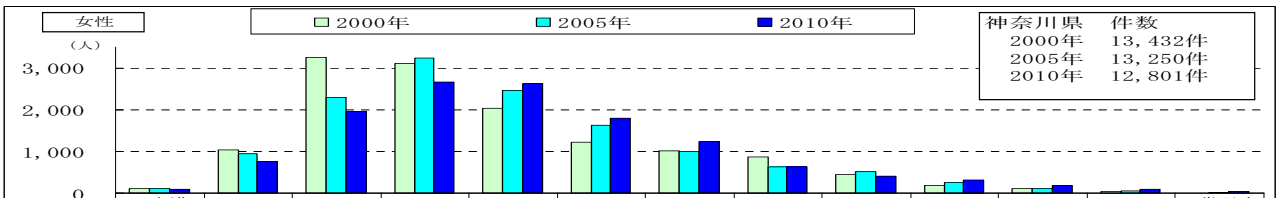
［人口動態調査］

（1-12　同年別居離婚　同居をやめたときの夫の年齢（５歳階級）の推移　該当年に同居をやめかつ届出のあったもの　神奈川県）



	20未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上
2000年	35	649	2,265	3,059	2,197	1,452	1,280	1,218	694	331	161	58	33
2005年	25	584	1,633	2,859	2,590	1,774	1,313	963	777	398	202	82	50
2010年	30	445	1,360	2,157	2,608	2,092	1,478	946	659	524	310	118	74

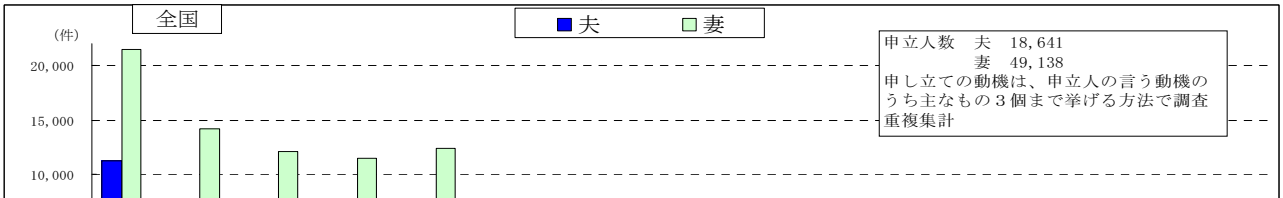
（1-13　同年別居離婚　同居をやめたときの妻の年齢（５歳階級）の推移　該当年に同居をやめかつ届出のあったもの　神奈川県）



	20未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上
2000年	103	1,038	3,264	3,104	2,036	1,216	1,022	875	449	184	105	30	6
2005年	113	940	2,297	3,245	2,454	1,621	996	634	513	262	109	53	13
2010年	95	765	1,957	2,659	2,637	1,799	1,250	624	399	311	181	84	40

［神奈川県衛生統計年報］

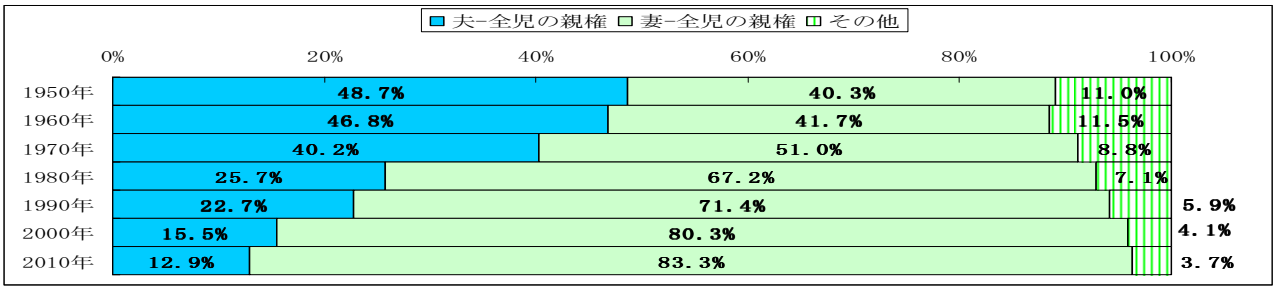
（1-14　申し立ての動機別、申し立て別婚姻関係事件数　全国　2011年　）



	性格が合わない	暴力をふるう	精神的に虐待する	異性関係	生活費を渡さない	浪費する	家族親族と折り合いが悪い	異常性格	家庭を捨てて省みない	性的不調和	酒を飲み過ぎる	同居に応じない	病気	その他	不詳
夫	11,277	1,394	2,632	3,193	615	2,336	2,917	2,505	1,189	2,394	476	1,830	784	3,335	432
妻	21,446	14,167	12,086	11,515	12,431	6,920	4,277	4,401	5,677	4,222	4,215	1,399	1,155	4,554	639
総数	32,723	15,561	14,718	14,708	13,046	9,256	7,194	6,906	6,866	6,616	4,691	3,229	1,939	7,889	1,071

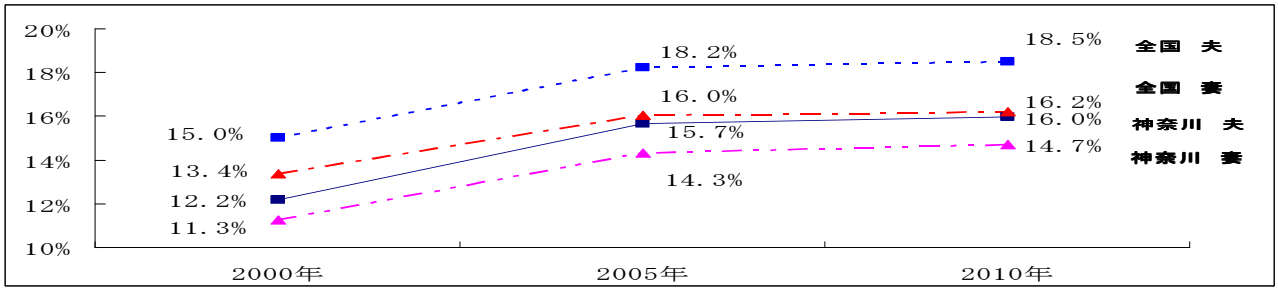
［司法統計年報］

（1-15　親権を行わなければならない子をもつ夫婦別にみた年次離婚件数の割合　全国



（1-16　全婚姻件数に対する再婚件数の割合の年次推移　神奈川県・全国）

［人口動態調査］



［神奈川県衛生統計年報］
［人口動態調査］

1-17　20歳代後半男性未婚率
20歳代後半女性未婚率

神奈川県民男性20代後半（25歳～29歳）の未婚率は上昇傾向でしたが、2010年は５年前より低下し10月１日現在72.8%です。

また、同じく女性20代後半（25歳～29歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在61.5%です。

なお、1985年以降の推移では男性の未婚率が女性を上回っていますが、1985年時34.3ポイントの差が2010年では11.3とその差が縮小しています。

出典　［国勢調査］より作成
このページすべて同じ　☆

1-18　30歳代前半男性未婚率
30歳代前半女性未婚率

神奈川県民男性30代前半（30歳～34歳）の未婚率は上昇傾向でしたが、2010年は５年前より低下し10月１日現在48.3%です。

また、同じく女性30代前半（30歳～34歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在34.1%です。

なお、1985年以降の推移では男性の未婚率が女性を上回っていますが、1985年時22.8ポイントの差が2010年では14.2とその差が縮小しています。

☆

1-19　30歳代後半男性未婚率
30歳代後半女性未婚率

神奈川県民男性30代後半（35歳～39歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在37.1%です。。

また、同じく女性30代後半（35歳～39歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在22.6%です。

なお、1985年以降の推移では男性の未婚率が女性を上回っていますが、1985年時11.2ポイントの差が2010年では14.5とその差が拡大しています。

☆

1-20　40歳代前半男性未婚率
40歳代前半女性未婚率

神奈川県民男性40代前半（40歳～44歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在29.7%です。

また、神奈川県民女性40代前半（40歳～44歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在16.7%です。

なお、1985年以降の推移では男性の未婚率が女性を上回っていますが、1985年時4.9ポイントの差が2010年では13.0とその差が拡大しています。

☆

注

未婚率：未婚率＝当該年齢階層別の（未婚者数／人口）

1-21　40歳代後半男性未婚率
40歳代後半女性未婚率

神奈川県民男性の40代後半（45歳～49歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在24.0%です。

また、同じく女性40代後半（45歳～49歳）の未婚率は上昇しており2010年10月１日現在12.2%です。

なお、1985年以降の推移では男性の未婚率が女性を上回っていますが、1985年時1.8ポイントの差が2010年では11.8とその差が拡大しています。

☆

◆　神奈川県・全国　年齢階級別未婚率

2010年10月１日現在、神奈川県民15歳以上全世代の未婚率は男性は34.7%、女性は24.6%、全国男性は31.3%、女性22.9%となっており、男女とも神奈川県が全国を上回っています。

世代別では、男性は15～19歳以外の他の世代は全国を上回っています。

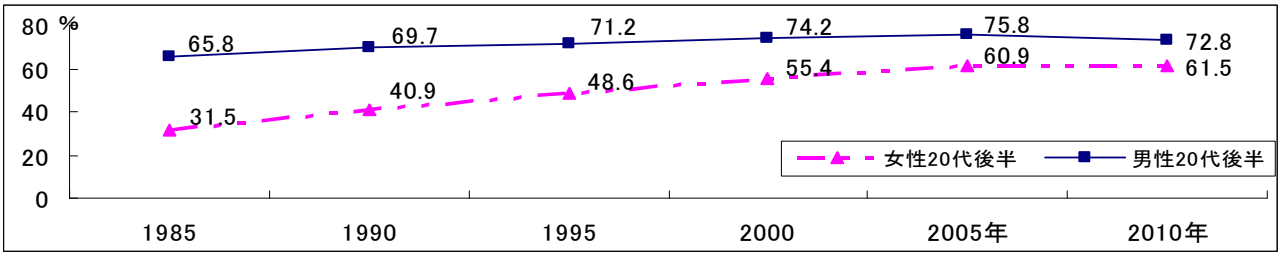
女性は35～39歳、40歳～44歳、45歳～49歳で全国を下回っていますが、他は全国を上回っています。

	神奈川男性 %	神奈川女性 %	全国男性 %	全国女性 %
15歳以上全世代計	34.7	24.6	31.3	22.9
15～19歳	99.0	99.0	99.0	98.9
20～24	93.0	90.1	91.4	87.8
25～29	72.8	61.5	69.2	58.9
30～34	48.3	34.1	46.0	33.9
35～39	37.1	22.6	34.8	22.7
40～44	29.7	16.7	28.0	17.1
45～49	24.0	12.2	22.0	12.4
50～54	19.1	8.9	17.5	8.6
55～59	16.6	6.8	14.4	6.4
60～64	12.1	5.5	10.2	5.4
65歳以上	4.8	4.1	3.6	3.9

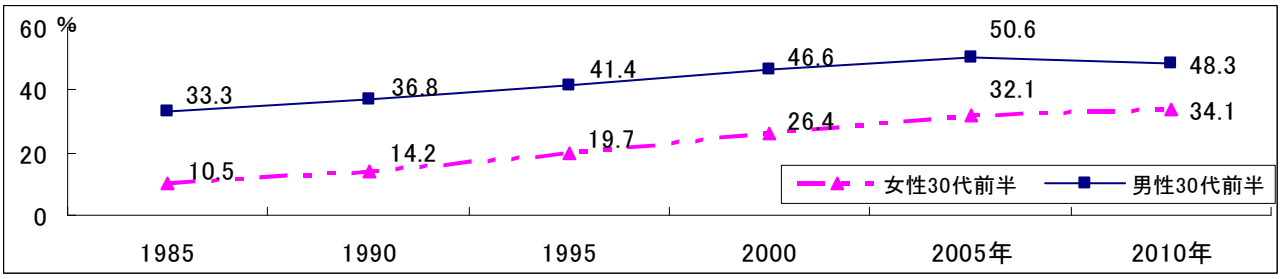
2010年10月1日現在

☆

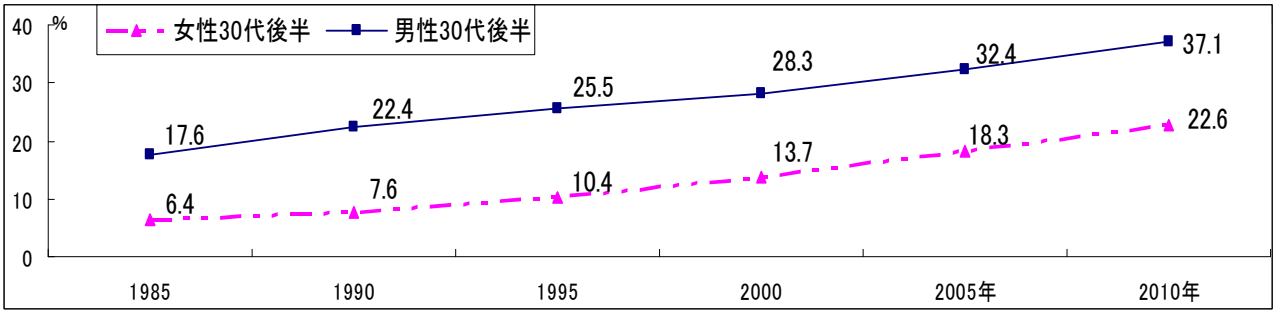
（1-17　20歳代後半男性未婚率　20歳代後半女性未婚率）



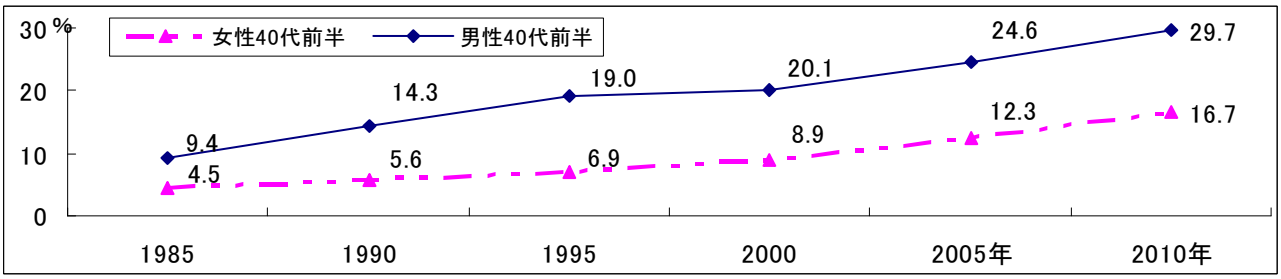
（1-18　30歳代前半男性未婚率　30歳代前半女性未婚率）　☆



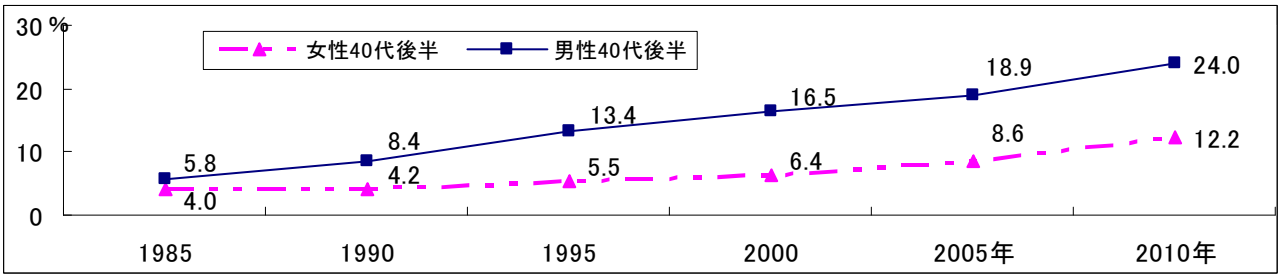
（1-19　30歳代後半男性未婚率　30歳代後半女性未婚率）　☆



（1-20　40歳代前半男性未婚率　40歳代前半女性未婚率）　☆



（1-21　40歳代後半男性未婚率　40歳代後半女性未婚率）　☆



注

1-17～1-21
各年10月１日現在の数値。

［国勢調査］より作成
このページすべて同じ
☆

1-22　総人口

全国の総人口が減少する中、神奈川県の総人口は増加していますが、男性は減少に転じています。

本県の総人口は1965年10月１日現在443万743人でしたが、2009年７月１日現在900万人を超え、2012年１月１日現在では906万257人です。2012年１月現在1965年10月の2.04倍となっています。

本県の男性の総人口は2012年１月１日現在454万2,247人で、2010年10月より2,298人減少しました。

同じく女性の総人口は2012年451万8,010人で2010年10月より14,224人増加しています。

1965年以降の推移をみると男性が女性を上回っていますがその差が縮小しており、近い将来女性が男性を上回る可能性が高いものと考えられます。

出典　［神奈川県人口統計調査結果］
［国勢調査］　☆

1-23　人口密度

神奈川県の人口密度は上昇しており、1965年10月１日現在1,866人/km²であったものが2012年月１日現在3,750人/km²となっています。

出典　［神奈川県人口統計調査結果］
［国勢調査］　☆

1-24　世帯数
１世帯当たり人員

神奈川県の世帯数は増加していますが、１世帯当たりの人員は減少しています。

本県の世帯数は1965年10月109万5062世帯でしたが、2012年１月１日現在387万6258世帯です。2012年1月現在1965年10月の3.5倍となっています。

一方、１世帯当たりの人員は1965年10月3.89人でしたが、2012年１月１日現在2.34人です。2012年1月現在1965年10月の0.6倍となっています。

出典　［神奈川県人口統計調査結果］　☆

◆　**神奈川県の人口が大台に達した年月等**

人口	100万人	200万人	300万人	400万人	500万人	600万人	700万人	800万人	900万人
到達年(月)	M35年 (1902年)	S14年 (1939年)	S31年12月 (1956年)	S38年12月 (1963年)	S43年9月 (1968年)	S48年5月 (1973年)	S56年7月 (1981年)	H3年2月 (1991年)	H21年7月 (2009年)
前到達年(月)からの所要年(月)数	―	37年	17年	7年	4年9ヵ月	4年8ヵ月	8年2ヵ月	9年7ヵ月	18年5ヵ月

☆

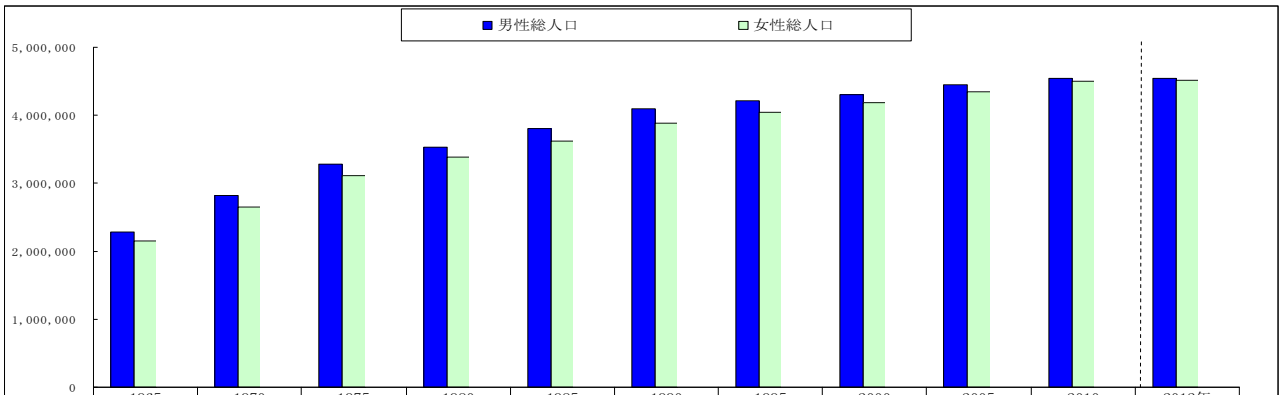
注

総人口：日本国内に常住している全人口（外国人を含む）のことで、一般的に人口といえば総人口のことをいいます。
なお、外国人のうち外国政府の外交使節団・領事機関の構成員や外国軍隊の軍人・軍属及びその家族は除きます。

人口密度（総面積１km²あたりの人口）：人口密度＝総人口／総面積

１世帯当たり人員：１世帯当たり人員＝総人口／世帯数

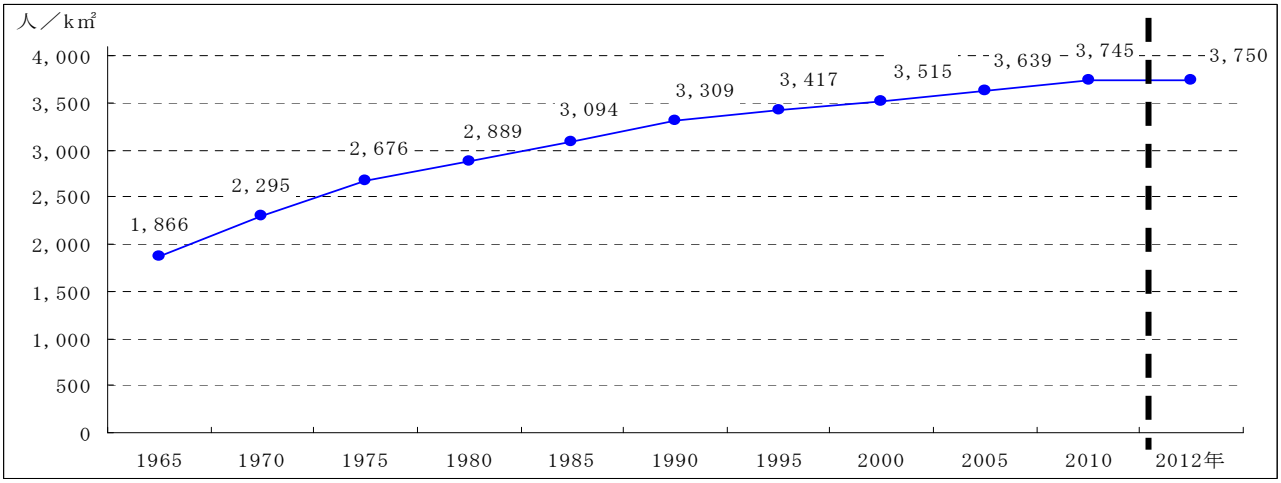
（1-22　総人口）



	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2012年
男性総人口	2, 280, 926	2, 822, 212	3, 287, 118	3, 536, 021	3, 804, 081	4, 098, 147	4, 209, 525	4, 308, 786	4, 444, 555	4, 544, 545	4, 542, 247
女性総人口	2, 149, 817	2, 650, 035	3, 110, 630	3, 388, 327	3, 627, 893	3, 882, 244	4, 036, 375	4, 181, 188	4, 347, 042	4, 503, 786	4, 518, 010
総人口	4, 430, 743	5, 472, 247	6, 397, 748	6, 924, 348	7, 431, 974	7, 980, 391	8, 245, 900	8, 489, 974	8, 791, 597	9, 048, 331	9, 060, 257

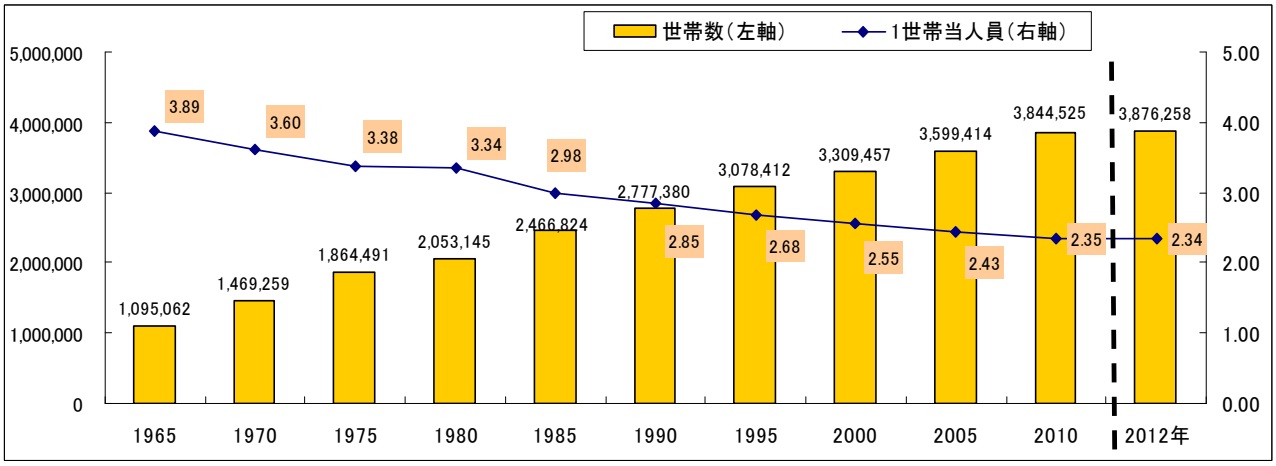
［神奈川県人口統計調査結果］［国勢調査］☆

（1-23　人口密度）



［神奈川県人口統計調査結果］［国勢調査］☆

（1-24　世帯数　１世帯当たり人員）



［神奈川県人口統計調査結果］☆

注

1-22、1-24　　総人口、世帯数、１世帯当たり人員

・2012年は１月１日現在、他年は10月１日現在の数値。

・平成22年国勢調査結果を基礎とし、住民基本台帳法、外国人登録法及び戸籍法の定めによる届出を加減して算出している。

1-23　人口密度

・総面積は全国都道府県市区町村別面積調［国土地理院］による。

1-25　人口増減
人口増減率

神奈川県の人口は増加しているものの増加数が減少傾向にあります。また、人口増減率もプラスですが数値は低くなっています。

2011年の１年間に神奈川県では9,229人増加しました。

1999年以降では、最も増加数が少なくなっています。

なお、最も多い年は2001年の71,874人です。

2011年の人口増減率は0.10％で、1999年以降では、最も増減率が低くなっています。なお、最も増減率が高い年は2001年の0.85％です。

出典　［神奈川県人口統計調査結果報告］
このページすべて同じ　☆

1-26　出生数、死亡数
自然増減

神奈川県の出生数は8万人前後でほぼ横ばいですが、死亡数が増加しており自然増減数はプラスであるものの減少傾向にあります。

2011年の１年間に神奈川県では77,353人が誕生しました。1999年以降では最も少ない出生数です。なお、1999年以降では2000年が84,411人で最も多い出生数です。

一方、2011年の死亡者は71,383人で1999年以降では最も多くなりました。2000年が51,194人で最も少なく、その後毎年増加しています。

出生数と死亡数の差である2011年の自然増減数は5,970人です。これは、1999年以降で最も少なく、最も自然増減数が多い2000年33,217人の約18％となっています。

☆

1-27　転入者数、転出者数
社会増減

神奈川県の転入者、転出者ともに減少傾向となっています。また、社会増減数はプラスですが年により大きく異なっています。

2011年の１年間に神奈川県への転入は484,175人で、1999年以降では最も少ない転入者数です。なお、2000年の591,245人が最も多い転入者数です。

一方、2011年の転出者数は480,916人で1999年以降では最も少なくなりました。なお、1999年以降で転出者数が最も多い年は2000年で567,138人です。

転入者数と転出者数の差である2011年の社会増減数は3,259人です。1999年以降で最も少なく、社会増減数が最も多い2007年42,898人の7.6％となっています。

☆

◆　**平成23年中の自然増減　男女別**

	男	女	総数
出生	39,754	37,599	77,353
死亡	39,167	32,216	71,383
自然増減	587	5,383	5,970

◆　**平成23年中の社会増減　男女別**

	男	女	総数
転入	258,788	225,387	484,175
転出	261,279	219,637	480,916
社会増減	-2,491	5,750	3,259

◆　**平成23年中の人口増減　男女別**

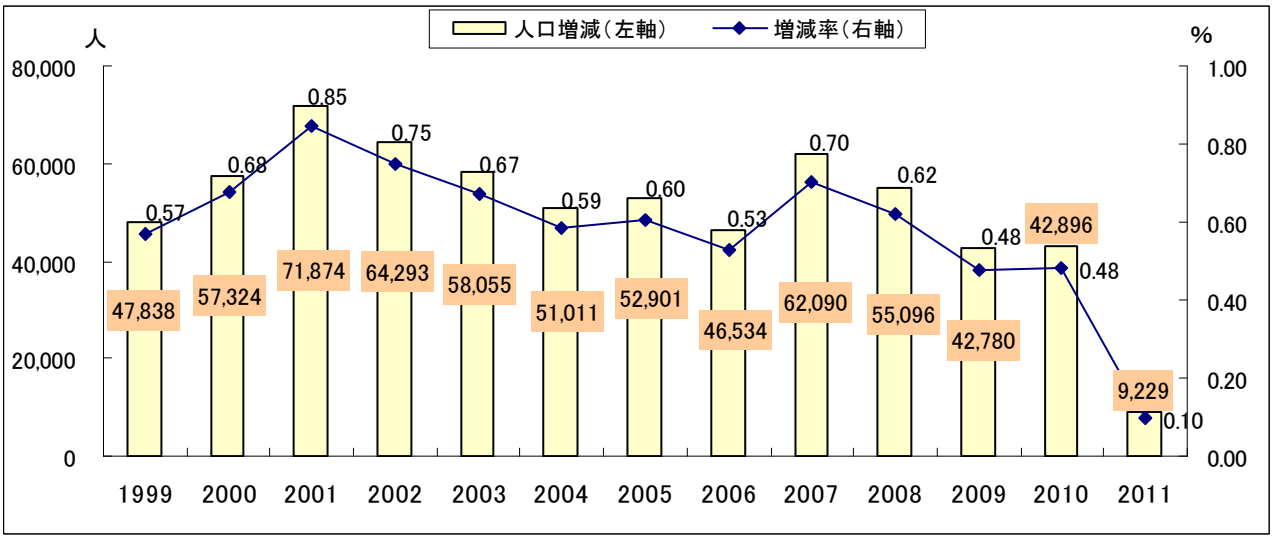
	男	女	総数
自然増減	587	5,383	5,970
社会増減	-2,491	5,750	3,259
合計	-1,904	11,133	9,229

☆

注

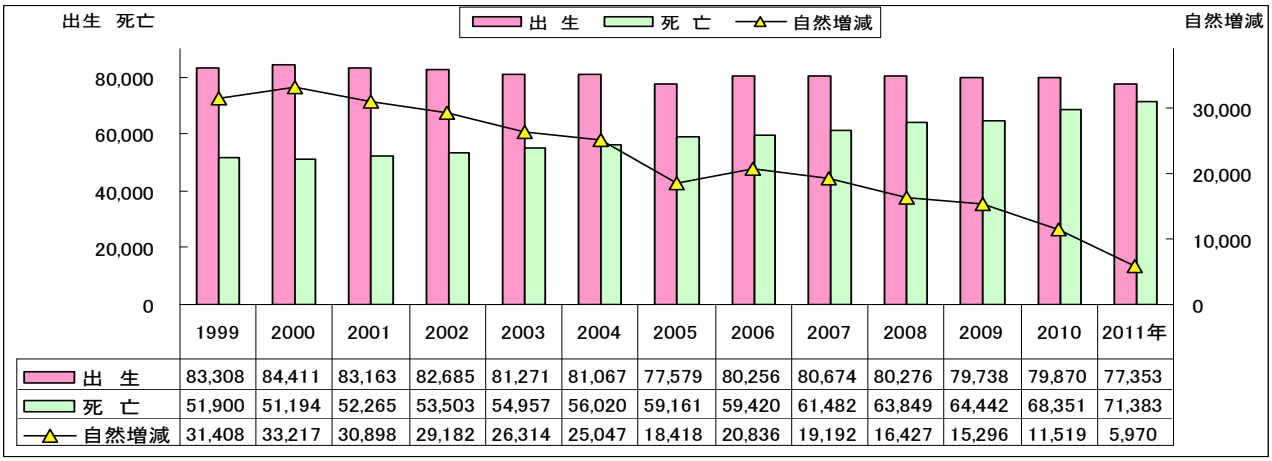
人口増減率：人口増減率＝(総人口－前年総人口)／前年総人口×100
自然増減：自然増減＝出生数－死亡者数
社会増減：社会増減＝転入者数－転出者数

（1-25　人口増減　　人口増減率）



☆

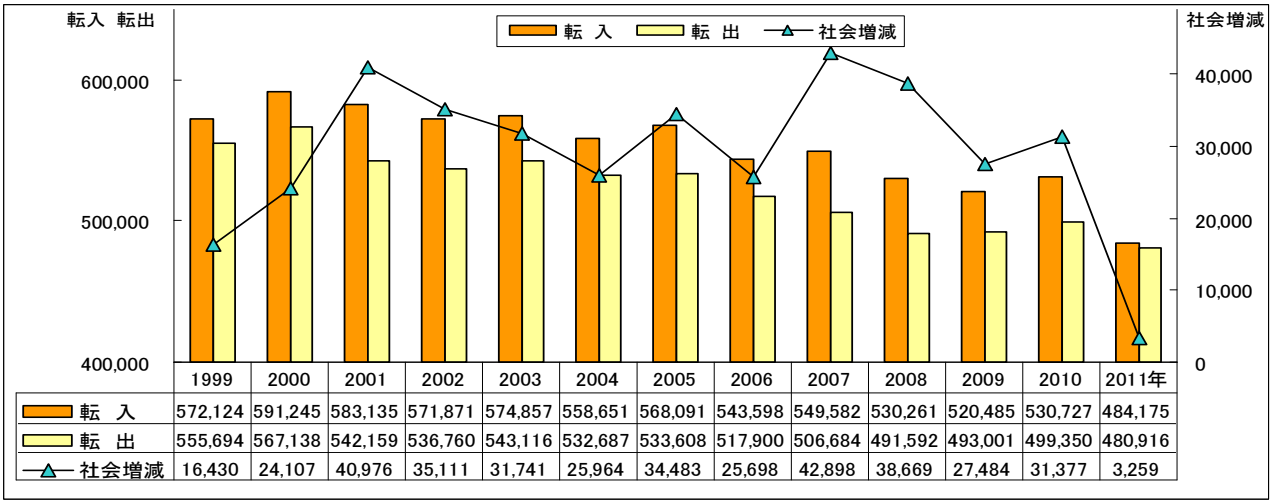
（1-26　出生数　死亡数　　自然増減）



	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011年
出　生	83,308	84,411	83,163	82,685	81,271	81,067	77,579	80,256	80,674	80,276	79,738	79,870	77,353
死　亡	51,900	51,194	52,265	53,503	54,957	56,020	59,161	59,420	61,482	63,849	64,442	68,351	71,383
自然増減	31,408	33,217	30,898	29,182	26,314	25,047	18,418	20,836	19,192	16,427	15,296	11,519	5,970

☆

（1-27　転入者数　　転出者数　　社会増減）



	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011年
転　入	572,124	591,245	583,135	571,871	574,857	558,651	568,091	543,598	549,582	530,261	520,485	530,727	484,175
転　出	555,694	567,138	542,159	536,760	543,116	532,687	533,608	517,900	506,684	491,592	493,001	499,350	480,916
社会増減	16,430	24,107	40,976	35,111	31,741	25,964	34,483	25,698	42,898	38,669	27,484	31,377	3,259

［神奈川県人口統計調査結果報告［年間集計結果］］
このページすべて同じ

☆

注

1-25～1-27
　各年１月～12月の数値。

1-28　流出人口
（県外への通勤・通学者）

2010年10月１日現在、神奈川県民で、県外へ通勤・通学している人（流出人口）は1,098,907人（男性748,440人、女性350,467人）です。10年前、５年前と比較してそれぞれ36,778人、44,260人減少しています。

男女別の状況は、男性は10年前と比較して51千余人、５年前と比較して44千余人減少しています。

一方、女性は10年前と比較して14千余人、54人増加しています。

出典　［国勢調査］
このページすべて同じ　☆

1-29　流入人口
（県外から県内への通勤・通学者）

2010年10月１日現在、県外から県内に通勤・通学している人（流入人口）は304,769人（男性215,635人、女性89,134人）です。10年前、５年前と比較して、それぞれ10,530人、9,417人増加しています。

男女別の状況は、男性は10年前と比較して91人、５年前と比較して８百余人増加しています。

一方、女性は10年前と比較して10千余人、５年前と比較して８千余人増加しています。

☆

1-30　流出超過人口

2010年10月１日現在、神奈川県の流出超過人口は794,138人（男性532,805人、女性261,333人）です。

10年前、５年前と比較して、それぞれ47,308人、53,677人減少しています。

男女別の状況は、男性は10年前と比較して51千余人、５年前と比較して45千余人減少しています。

一方、女性は10年前と比較して４千余人、５年前と比較して８千余人減少しています。

☆

1-31　昼間人口
昼夜間人口比率

2010年10月１日現在、神奈川の昼間人口は8,254,193人（男性4,011,740人、女性4,242,453人）で、常住人口（夜間人口）の9,048,331人（男性4,544,545人、女性4,503,786人）より794,138人少なく、神奈川の昼夜間人口比率は、91.2%です。

昼間人口、常住人口ともに10年前、５年前より増加しています。

また、昼夜間人口比率91.2%は、10年前の90.1%、５年前の90.3%より高くなっています。

なお、2010年の男女別の昼夜間人口比率は男性が88.3%、女性が94.2%で、女性が男性より約６ポイント高くなっています。

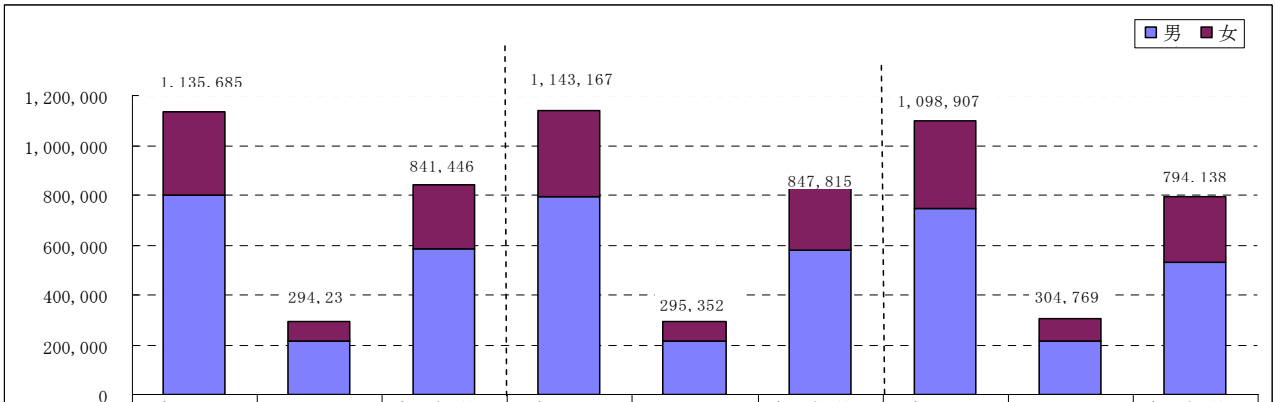
☆

注

通勤・通学者：15歳以上の就業者と15歳未満通学者を含む通学者
流出超過人口：流出人口－流入人口

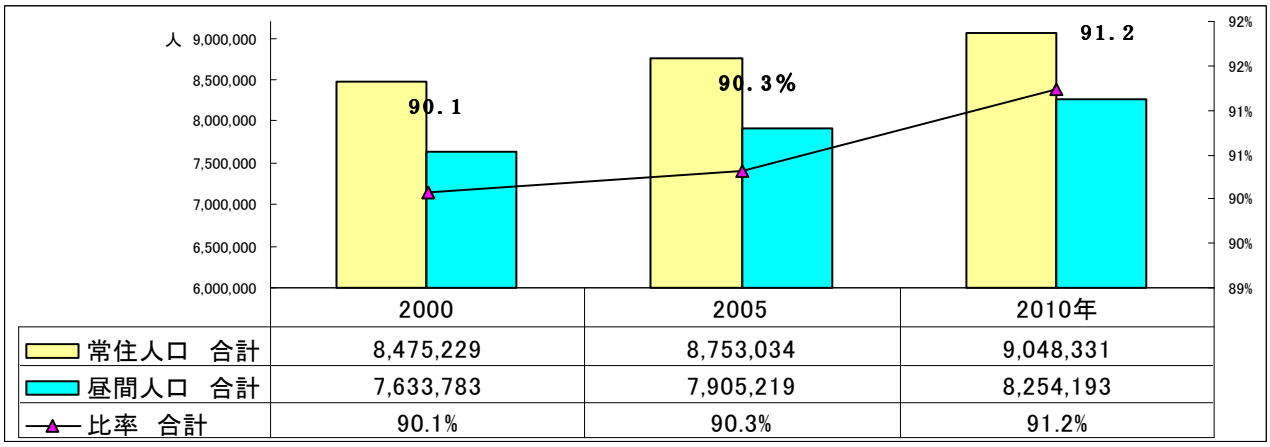
常住人口：常住人口は、年齢不詳が除かれているので総人口とは一致しない。
昼間人口＝常住人口－県外通勤・通学者＋他県からの通勤・通学者
昼夜間人口比率＝昼間人口／常住人口×100

（1-28　流出人口（県外への通勤・通学者））
（1-29　流入人口（県外から県内への通勤・通学者））
（1-30　流出超過人口）



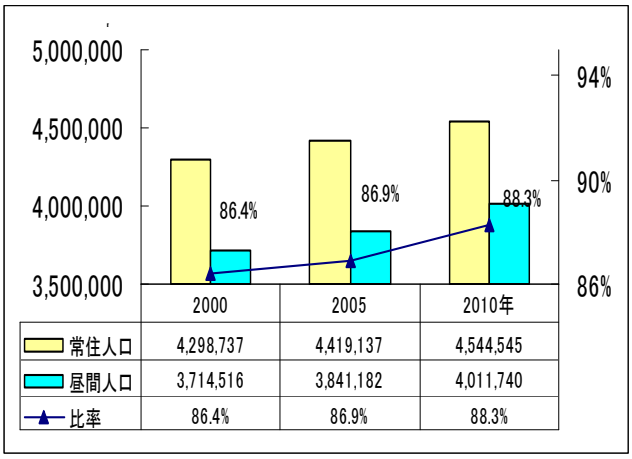
	流出人口（2000年）	流入人口	流出超過人口	流出人口（2005年）	流入人口	流出超過人口	流出人口（2010年）	流入人口	流出超過人口
計	1,135,685	294,239	841,446	1,143,167	295,352	847,815	1,098,907	304,769	794,138
女	335,920	78,695	257,225	350,413	80,553	269,860	350,467	89,134	261,333
男	799,765	215,544	584,221	792,754	214,799	577,955	748,440	215,635	532,805

（1-31　昼間人口　昼夜間人口比率）　☆



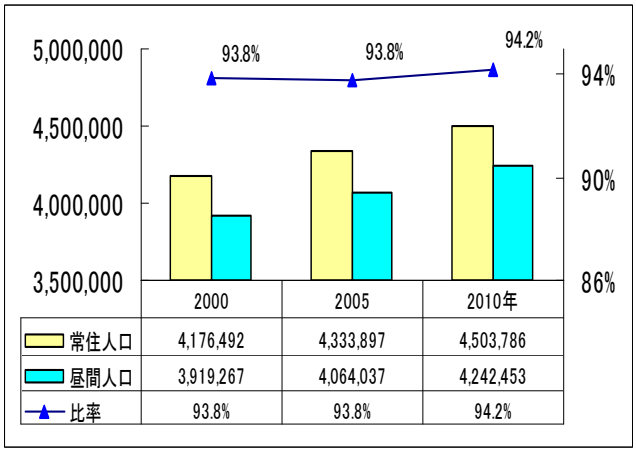
	2000	2005	2010年
常住人口　合計	8,475,229	8,753,034	9,048,331
昼間人口　合計	7,633,783	7,905,219	8,254,193
比率　合計	90.1%	90.3%	91.2%

（1-31　昼間人口　昼夜間人口比率　男性）



	2000	2005	2010年
常住人口	4,298,737	4,419,137	4,544,545
昼間人口	3,714,516	3,841,182	4,011,740
比率	86.4%	86.9%	88.3%

（1-31　昼間人口　昼夜間人口比率　女性）　☆



	2000	2005	2010年
常住人口	4,176,492	4,333,897	4,503,786
昼間人口	3,919,267	4,064,037	4,242,453
比率	93.8%	93.8%	94.2%

［国勢調査］
このページすべて同じ
☆

注

1-28～1-31
各年10月１日現在の数値。

1-32　外国人登録者数

2011年12月31日現在、神奈川県の外国人登録者数は166,154人です。これは本県の総人口の1.83%です。

全国の外国人登録者数は207万8,508人で、総人口の1.63%です。

本県の過去６年の状況をみると、2009年17万3,039人をピークに減少傾向にあります。

男性は７万6,762人で、2008年８万2,306人から5,544人減少しています。

女性は８万9,392人で、2009年９万1,235人から1,843人減少しています。

出典　［登録外国人統計］
このページすべて同じ　☆

1-33　地域別外国人登録者数

地域別の外国人登録者数はアジアが最も多く13万1,220人で、県の外国人登録者の79.0%を占めます。

次いで南米、北米、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニナの順です。

1-34　国籍別外国人登録者数

神奈川県の国籍別外国人登録者数は、中国が最も多く５万5,362人（全体の33.3%）です。次いで韓国・朝鮮３万2,525人（19.6%）、フィリピン１万8,253人（11.0%）、ブラジル１万60人（6.1%）、ペルー7,442人（4.5%）の順です。

この上位５箇国で県の外国人登録者数の74.4%となります。

☆

1-35　外国人登録者年齢階層別人数

５歳刻みの年齢階層別外国人登録者数で最も多いものは30歳～34歳２万2,056人で全体の13.3%です。次いで25歳～29歳２万1,878人、40歳～44歳１万9,004人など、生産年齢である20代から50代が多くなっています。

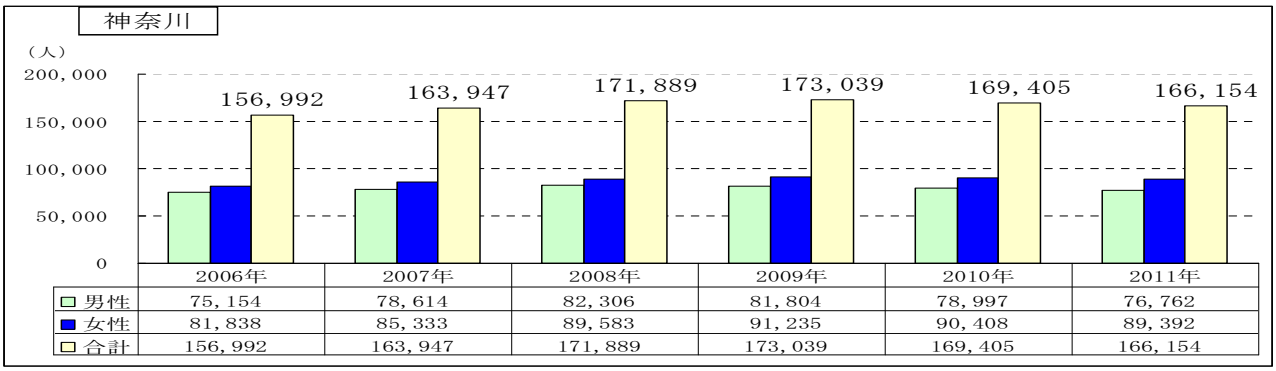
男性は25歳～29歳、30歳～34歳、35歳～39歳の順で多くなっています。

女性は30歳～34歳、25歳～29歳、40歳～44歳の順で多くなっています。

注

外国人登録者：日本に在住する外国人のうち、「外国人登録法」に基づく登録を行った者の数。外交官、軍人及び軍属とその家族を除く。

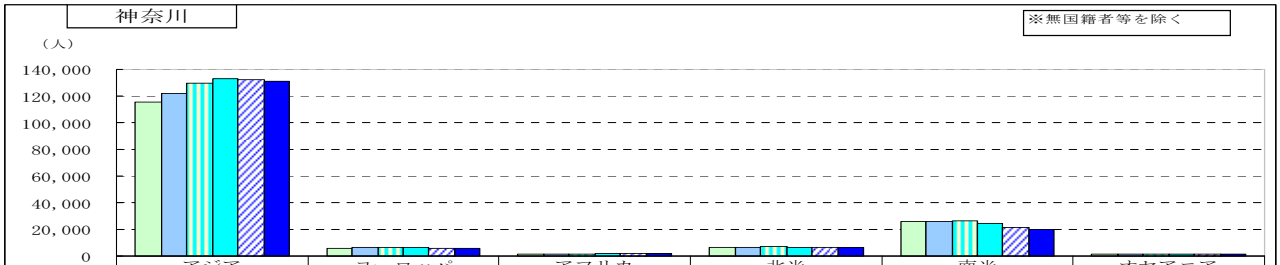
（1-32　外国人登録者数



	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
男性	75,154	78,614	82,306	81,804	78,997	76,762
女性	81,838	85,333	89,583	91,235	90,408	89,392
合計	156,992	163,947	171,889	173,039	169,405	166,154

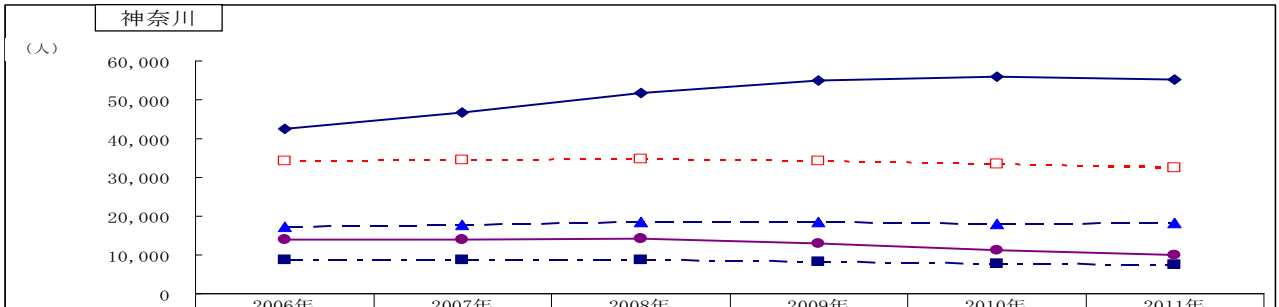
☆

（1-33　外国人登録者 地域別人数の推移）



	アジア	ヨーロッパ	アフリカ	北米	南米	オセアニア
2006年	115,595	6,091	1,465	6,667	25,772	1,190
2007年	122,198	6,223	1,506	6,695	26,012	1,123
2008年	129,749	6,388	1,551	6,783	26,130	1,077
2009年	132,757	6,298	1,623	6,722	24,370	1,074
2010年	132,490	6,099	1,630	6,417	21,548	1,033
2011年	131,220	5,810	1,654	6,297	20,000	995

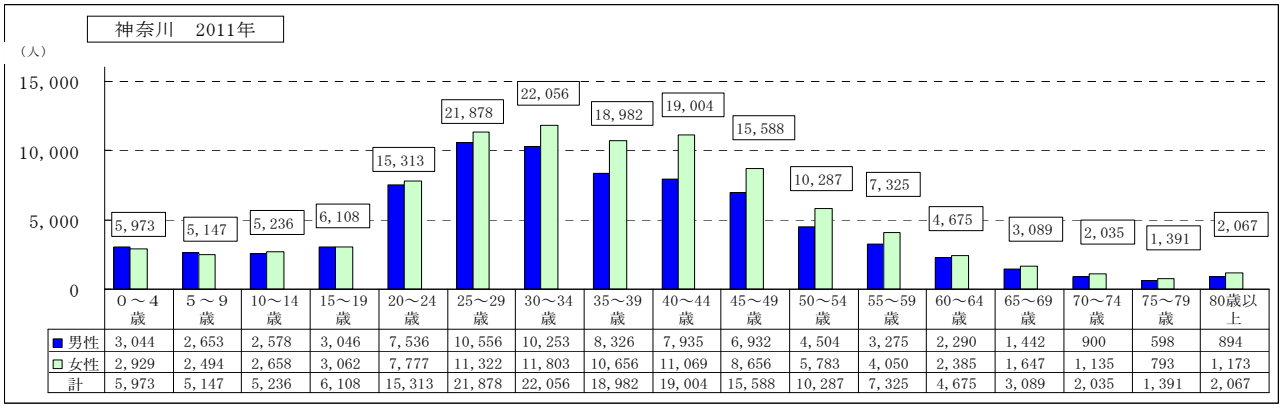
（1-34　国籍別外国人登録者数　上位５ヶ国）



	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
中国	42,409	46,750	51,789	55,095	56,095	55,362
韓国・朝鮮	34,227	34,552	34,838	34,233	33,541	32,525
フィリピン	17,221	17,789	18,502	18,447	18,047	18,253
ブラジル	13,933	14,107	14,248	13,091	11,166	10,060
ペルー	8,679	8,762	8,775	8,363	7,756	7,442

（1-35　外国人登録者年齢階層別人数　2011年）

☆



	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
男性	3,044	2,653	2,578	3,046	7,536	10,556	10,253	8,326	7,935	6,932	4,504	3,275	2,290	1,442	900	598	894
女性	2,929	2,494	2,658	3,062	7,777	11,322	11,803	10,656	11,069	8,656	5,783	4,050	2,385	1,647	1,135	793	1,173
計	5,973	5,147	5,236	6,108	15,313	21,878	22,056	18,982	19,004	15,588	10,287	7,325	4,675	3,089	2,035	1,391	2,067

注

［登録外国人統計］
このページすべて同じ

各年12月31日現在の数値。

1-36　夫婦の一方が外国籍の婚姻件数と割合（全国）

2010年中全国における夫婦の一方が外国籍の婚姻件数は30,207件です。

５年ごとの推移をみると、1970年5,546件であったが、1990年は25,626件と大幅に増加し、2005年41,481件と最も多くなり、2010年はそれより１万余件減少しています。

「夫が日本国籍・妻が外国籍」の婚姻件数は22,843件で、30年前の1970年2,108年の10倍以上になっています。

「妻が日本国籍・夫が外国籍」の婚姻件数は7,364件で、1970年3,438件の２倍以上になっています。

また、全婚姻件数に占める夫婦の一方が外国籍の婚姻件数の割合は4.3%です。

出典　［人口動態調査］より作成
このページすべて同じ

1-37　夫婦の一方が外国籍の婚姻件数と割合

2010年中に神奈川県における夫婦の一方が外国籍の婚姻件数は、2,891件です。2000年3,336件、2005年が3,908件で、10年前より445件、５年前より1,017件減少しています。

「夫が日本国籍・妻が外国籍」の婚姻件数は2,119件で、「妻が日本国籍・夫が外国籍」の婚姻件数は772件です。

また、全婚姻件数に占める夫婦の一方が外国籍の婚姻件数の割合は5.3%で、全国の4.3%より１ポイント高くなっています。

1-38　夫婦の一方が外国籍の婚姻　日本国籍の男女別割合　神奈川県と全国

2010年中に神奈川県における夫婦の一方が外国籍の婚姻件数のうち、「夫が日本国籍・妻が外国籍」は73.3%、「妻が日本国籍・夫が外国籍」は26.7%です。

全国では、「夫が日本国籍・妻が外国籍」は75.6%、「妻が日本国籍・夫が外国籍」は24.4%です。

なお、神奈川県における「夫が日本国籍・妻が外国籍」の妻の国籍は、多い順から中国、フィリピン、韓国・朝鮮です。

同じく神奈川県における「妻が日本国籍・夫が外国籍」の夫の国籍は、多い順から米国、韓国・朝鮮、中国の順です。

◆　国籍別上位３　2011年神奈川と全国

夫日本・妻外国　妻の国籍の割合上位３

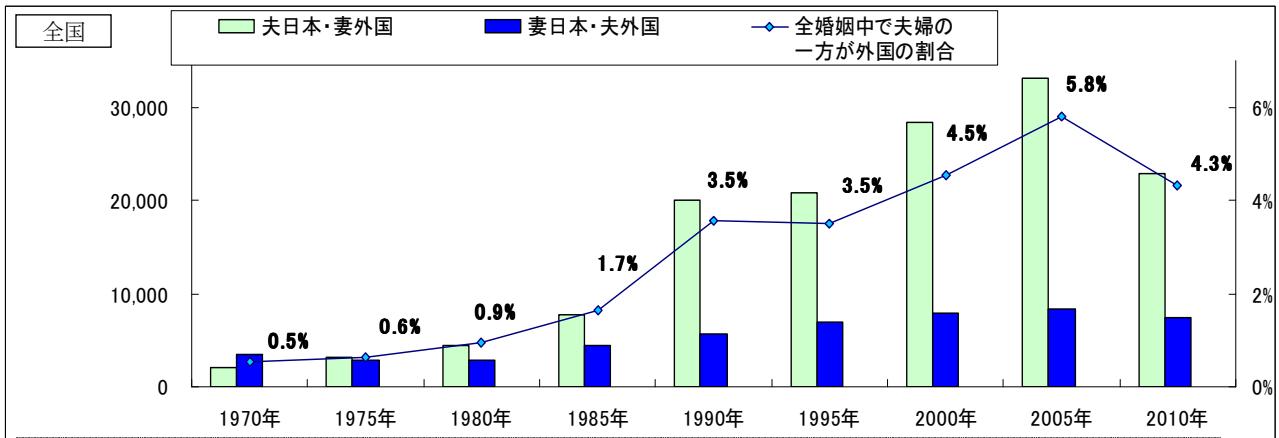
神奈川		全国	
中　国	41.7%	中　国	44.5%
フィリピン	20.5%	フィリピン	22.8%
韓国・朝鮮	15.8%	韓国・朝鮮	16.0%
※その他の国	13.4%	※その他の国	9.2%

妻日本・夫外国　夫の国籍の割合上位３

神奈川		全国	
米　国	31.7%	韓国・朝鮮	26.9%
韓国・朝鮮	14.1%	米　国	18.0%
中　国	10.6%	中　国	12.4%
※その他の国	32.9%	※その他の国	31.0%

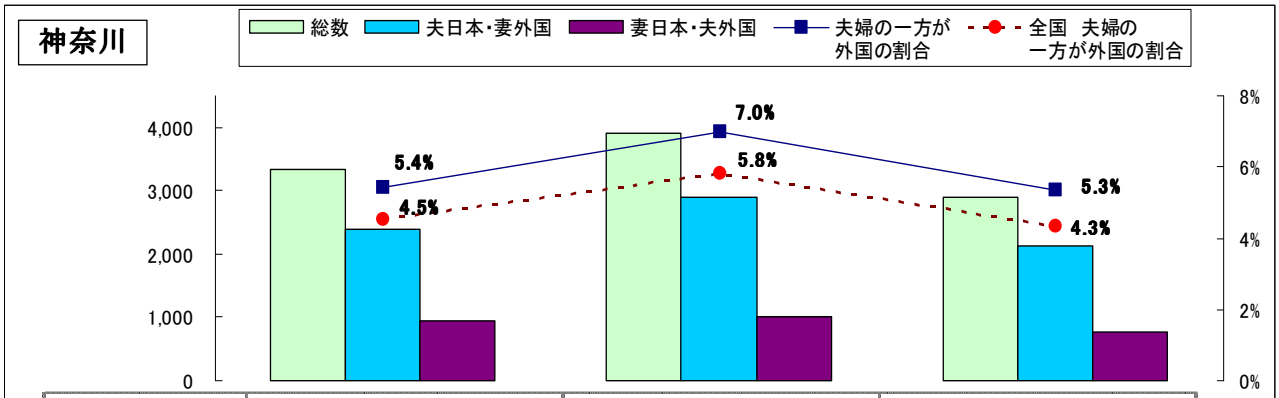
※その他の国：
韓国・朝鮮、中国、フィリピン、タイ、米国、英国、ブラジル、ペルー以外の国

（1-36　夫婦の国籍別にみた婚姻件数の推移　全国）



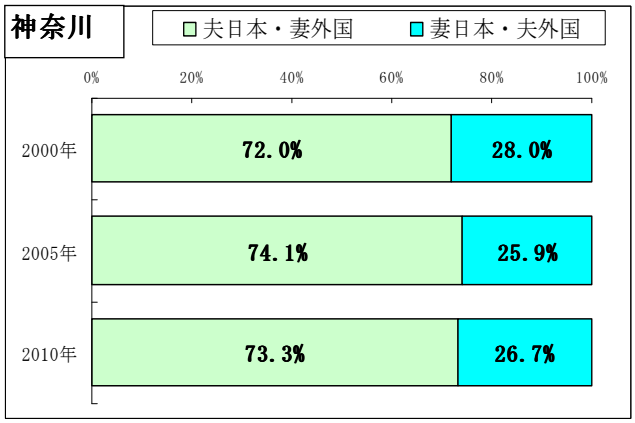
	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
夫日本・妻外国	2, 108	3, 222	4, 386	7, 738	20, 026	20, 787	28, 326	33, 116	22, 843
妻日本・夫外国	3, 438	2, 823	2, 875	4, 443	5, 600	6, 940	7, 937	8, 365	7, 364
夫婦の一方が外国　合計	5, 546	6, 045	7, 261	12, 181	25, 626	27, 727	36, 263	41, 481	30, 207

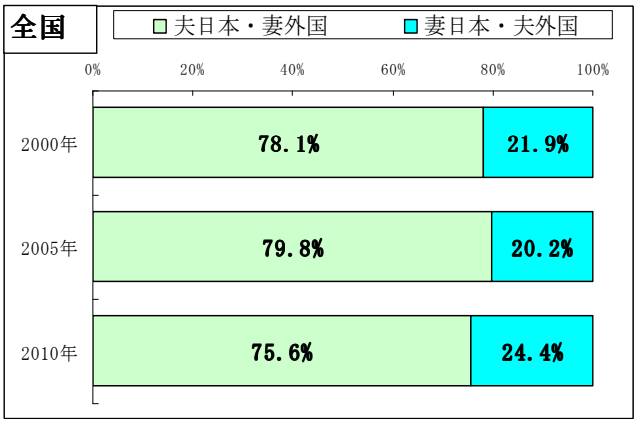
（1-37　夫妻の国籍別にみた婚姻件数の推移　神奈川県）



	2000年	2005年	2010年
夫日本・妻外国	2, 402	2, 894	2, 119
妻日本・夫外国	934	1, 014	772
合　計	3, 336	3, 908	2, 891

（1-38　「夫が日本国籍・妻が外国籍」と「妻が日本国籍・夫が外国籍」の割合　神奈川県と全国）





［人口動態調査］より作成
このページすべて同じ

1-39　家族類型別一般世帯の構成割合

2010年10月1日現在、神奈川県の家族類型別一般世帯の構成で、最も割合の高いものは「単独世帯」（33.8%）で、次いで「夫婦と子どもから成る世帯」（31.1%）、「夫婦のみの世帯」（20.0%）、「女親と子どもから成る世帯」（6.8%）、「その他の親族世帯」（5.8%）、「男親と子どもから成る世帯」（1.3%）、「非親族世帯」（1.0%）の順です。

40年前の1970年と比較すると、「単独世帯」が21.6ポイント（12.2%→33.8%）、「夫婦のみの世帯」が8.2ポイント（11.8%→20.0%）と大幅にその割合が高くなっています。　一方、「夫婦と子どもから成る世帯」が22.3ポイント（53.4%→31.1%）、その他親族世帯が10.6ポイント（16.4%→5.8%）と、大幅にその比率が低下しています。

なお、全国との比較では、神奈川県は「単独世帯」「夫婦と子どもからなる世帯」の割合が高く、「その他の親族世帯の割合が低くなっています（ページ下、参考参照）。

出典　[国勢調査]より作成
このページすべて同じ

1-40　高齢者単独世帯数と高齢者人口に占める割合

2010年10月１日現在、神奈川県の男性の高齢者単独世帯は100,336世帯で、30年前（1980年）の11.4倍、20年前（1990年）の5.8倍、10年前（2000年）の2.1倍と急増しています。

女性の高齢者単独世帯は208,127世帯で、30年前の8.1倍、20年前の3.6倍、10年前の1.8倍と、こちらも急増しています。

2010年10月1日現在、単独世帯の高齢者人口に占める割合は、男性は12.3%で、30年前の4.6%から８ポイント近く高くなっています。

同じく女性は20.7%で、30年前の10.2%から10ポイント以上高くなっています。

なお、2010年10月１日現在、全国における単独世帯の高齢者人口に占める割合は、男性11.1%、女性20.3%になっています。

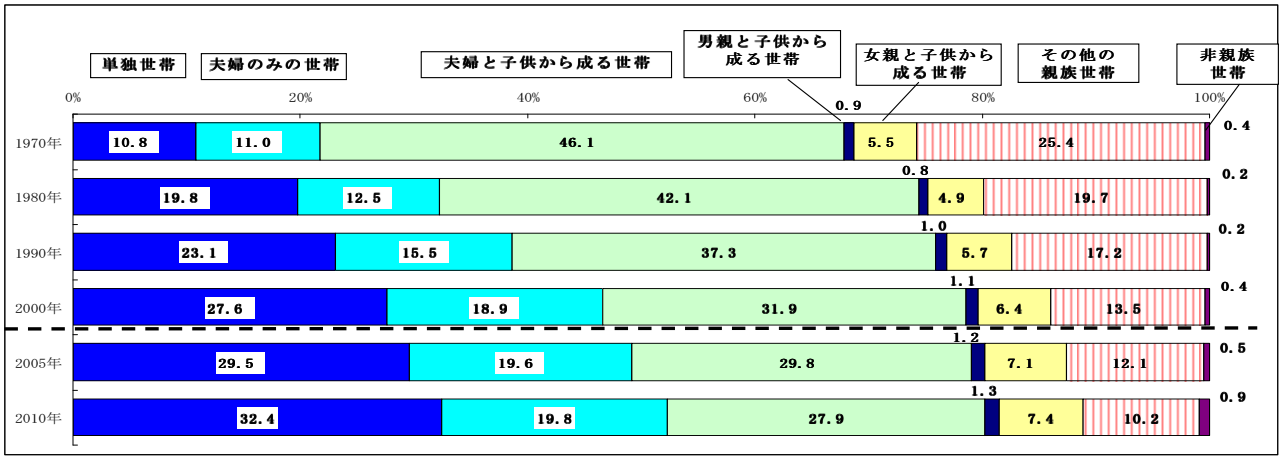
1-41　年代別男女別単独世帯割合

2010年10月１日現在、神奈川県の男性人口に占める単独世帯の５歳年齢別割合で最も高いものは20歳代後半（33.9%）で、それ以降は低下し、80歳代前半から再度高くなっています。

一方、女性は20歳代前半（20.1%）で高くなり、それ以降は低下し、50歳代前半から再度高くなり、80代前半（28.8%）に最も高くなっています。

なお、60歳代前半まで男性の単独世帯割合が女性を上回っていますが、60歳代後半から女性の単身世帯割合が男性を上回ります。

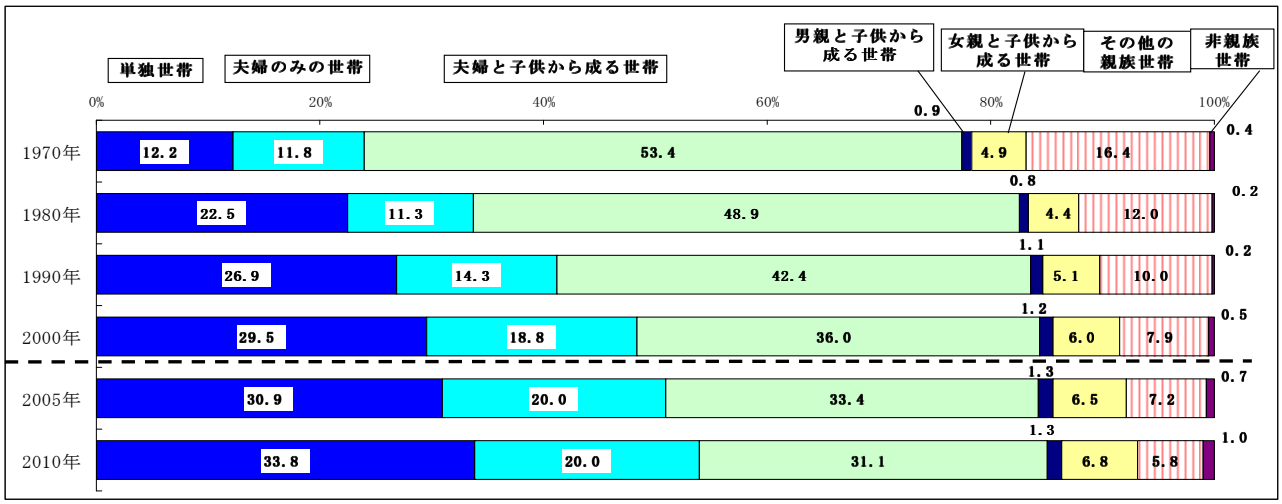
◆　家族類型別　一般世帯の構成割合の推移　全国



注

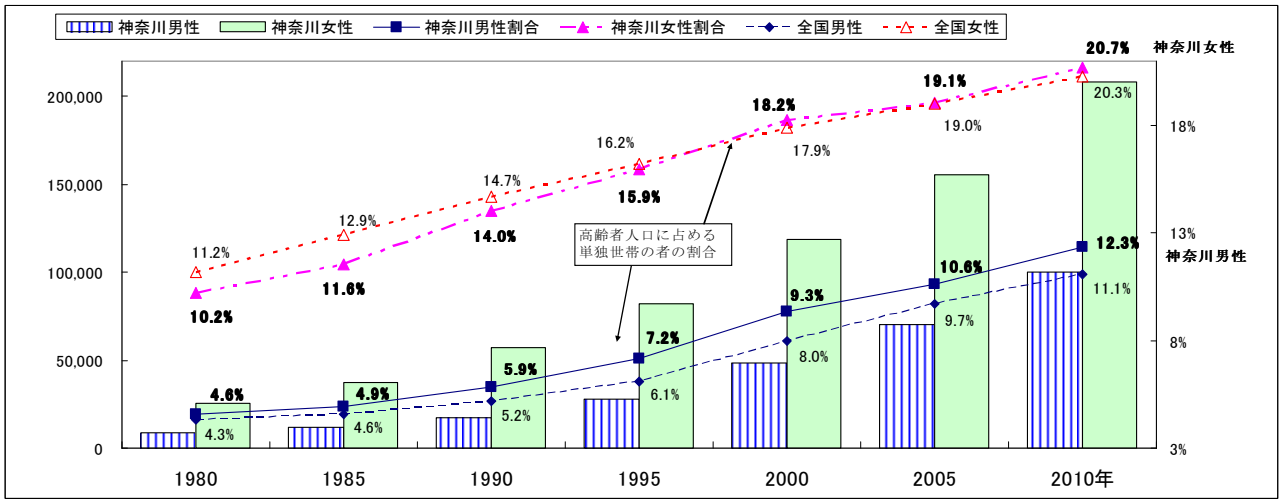
高齢者単独世帯：65歳以上の単独世帯を指す。

（1-39　家族類型別　一般世帯の構成割合の推移　神奈川県）



（1-40　高齢者単独世帯数の推移と高齢者人口に占める割合　　神奈川県・全国）

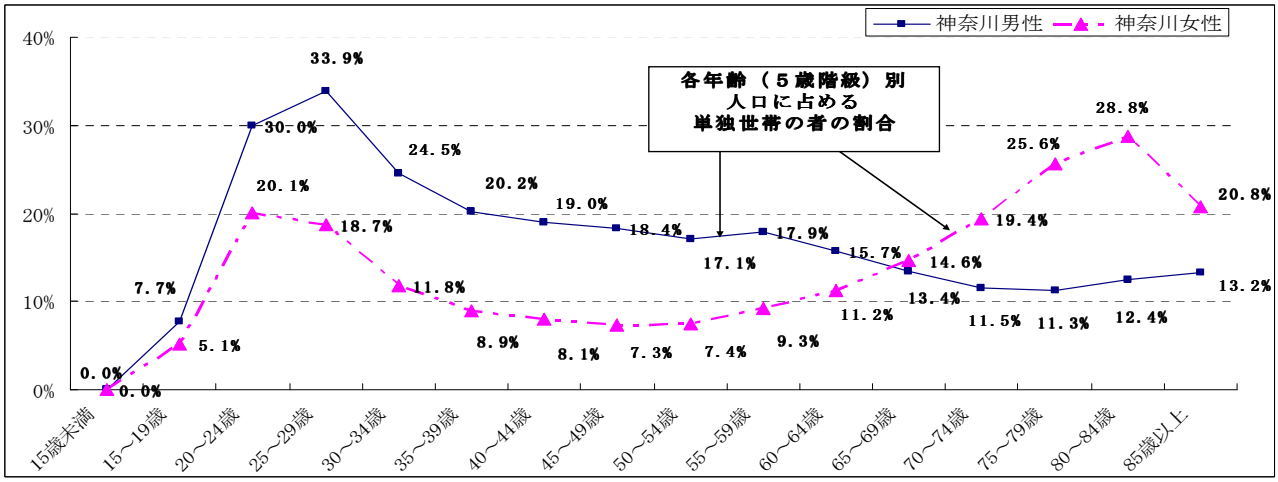
［国勢調査］より作成



神奈川男性	8,835	11,651	17,379	28,242	48,352	70,480	100,336
神奈川女性	25,569	36,995	57,204	82,177	118,748	155,639	208,127

［内閣府「平成24年版高齢社会白書」］を基に［国勢調査］より神奈川県版を作成

（1-41　各年齢の人口に占める男女別単独世帯の割合　神奈川県）



［国勢調査］より作成

注

全て各年10月１日現在の数値。

人口と世帯の問題

問１　2000年に結婚生活に入り届け出たもののうち、平均初婚年齢は神奈川県男性は29.5歳、神奈川県女性は27.6歳でした。では、2010年はどうだったでしょうか？

① 男女とも平均初婚年齢は低くなった
② 男女とも平均初婚年齢はほぼ横ばい
③ 男女とも平均初婚年齢は高くなった

問２　2010年の神奈川県における第一子出生時の母の年齢（５歳区分）で最も多いのはどれでしょうか？

① 25～29歳
② 30～34歳
③ 35～39歳

問３　2010年中の全国における夫婦の一方が外国籍の婚姻件数は30,207件で、全婚姻件数に占める割合は4.3%でした。同じく神奈川県における夫婦の一方が外国籍の婚姻件数は2,891件でした。これは神奈川県における全婚姻件数の何％でしょうか？

① 3.3%
② 4.3%
③ 5.3%

問４　全国における離婚について、親権を行わなければならない子をもつ夫婦別にみた離婚後に妻が全児の親権を持つ割合は、1960年は46.8%でした。では2010年はどうだったでしょうか？

① 40.3%
② 67.2%
③ 83.3%

問５　2010年10月１日現在、神奈川県の家族類型一般世帯で一番多いのは次のうちどれでしょうか？

① 夫婦と子どもから成る世帯
② 夫婦のみの世帯
③ 単独世帯

問６　2010年10月１日現在、神奈川県の65歳以上の男女のうち、一人暮らし（単独世帯）は男女それぞれ何%でしょうか？

① 約５％
② 約12%
③ 約21%

解答は149ページ